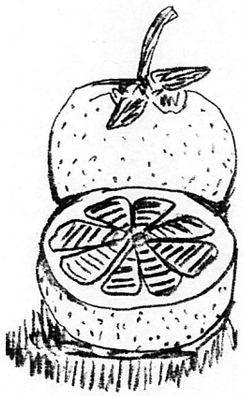
アストロラマ　Ｎｏ．６１

発行者　桑原由紀子　生駒市上町９－１２　☎０７４３７－８－１９６９

１９９０．５．１



皆様こんにちわ。どんなことでも楽しいと思える心、又実際に楽しめる身体、お友達との仲良し、そんな心身の成長を願い、そんな楽しさが体験を通して身につけばいいなと思って、沙代子にプレゼントした幼年部の一年が始まりました。みかんの里、有田郡六川はとてもいいところです。

その六川から「幼年部だより」がきましたので、同封しました。子供の未来、地球の未来を一緒に考えてみませんか？

楽しさを味わう・・・３月２７日から４月３日まで、春休み楽園村に参加してきた私の友達、小５の平桃子ちゃんの感想文を紹介します。

「おかわりっ！」その声がいまでは、宝物のように聞こえます。からっぽのおちゃわんが回ってくると、自分の食べる時間がなくてもうれしくって、「いやだぁ」なんてひとかけらも思いません。一日一日食べる時間が少なくなって、おひつの前にほとんど立ちっぱなしの時なんか、これほど楽しいことはないと思いました。なんか皆んながモリモリ食べてくれるのが、とってもうれしくて、本当にテーブルのお姉さん役をやらせてもらってよかったって思いました。初め全然気が進まなくってかったるかったお姉さん役が、いまではとっても楽しいのが不思議です。ひよこのように“いや”のカラを一つ、この楽園村でわれてよかったです。これから家に帰ってまだ小さなひよこをどんどん成長させていきたいです。

４月１日　「美保さんと歩こう会」の報告

報告の前にまづお詫びから・・・前号で４月１日は八坂神社で会いましょうと載せたのですが、発行後に「美保さんと歩こう会」に変更になりました。当日八坂神社に行かれた方ごめんなさい。

さて、その４月１日、前日の雨とはうって変わって申し分のないハイキング日和。

今回の参加者は、杉原ご夫妻、大窪ご夫妻、汐崎郁代さん、鶴秀生さん、小林節美さん、吉田浩一さん、門田光恵さん、宮脇ゆきえさん、内川敦子さん、末松具子さん、兵頭かずえさん（母）、兵頭伸一くん（甥）、兵頭克人君（甥）と私、計１６名でした。

コースは長岡天神駅から長岡天満宮→乙訓寺→光明寺→勝持寺（花の寺）→東向日町駅まで、何キロあるかわからないけどよく歩きました。

桜は満開だし、道端はタンポポ、スミレ、菜の花と春の花がいっぱい。歩けば少し汗ばむ程の陽気に心地よい春風プラス美保さんを囲む人の輪が、ハイキングを２倍も３倍も楽しいものにしていると思いました。

美保さん自身が、どんな人に対しても、初めての人なんて感じさせない魅力の人なんだけど、美保さんのそんな気持ちと参加した人たち一人一人の、新しい出あいを楽しむ気持ちが一つになり、このアストロラマもそんな人の輪をつなげる気持ちの架け橋になっているナと実感しました。

また、母の手作りののり巻きが大好評で、美保さんもついのり巻きに手がのびて、手持ちのお弁当が残ったとか・・・。のり巻き八本分がすべて皆んなのおなかに入って、母もそれはそれは大喜びでした。参加するなら何か自分のできるところで皆を喜ばせたい・・

そんな気持ちで参加してくれた母ですが、母自身もおおいに楽しめたようで、次回も是非参加したいとのことでした。とにかく歩きに歩いてフラフラだったけれど、いろんな楽しさを味わった一日でした。

こんな楽しい「美保さんと歩こう会」次回は５月２６日に予定しています。あなたの楽しみを見つける「場」にしていきませんか？

宮脇ゆきえさん、その節はたくさんのカンパを有り難うございました。
大崎紀子さんからのメッセージ・・・

こんにちわ。久々のお便りで申し訳なく思っています。「アストロラマ」６０号をいただき、いつもながら桑原さんをはじめ、陰になり日向になって下さっている方々のお力添えに感謝するばかりです。

大阪を出て７年。すっかり東京組になってしまった私ですが、皆様とのお付き合いを今後とも大切にしていきたいと思います。

大崎さんからは、切手のカンパもありました。どうもありがとう。
また、美保さんから『アストロラマに、足立さんのエドモンド大学入学のことを是非書いてほしいワ。費用とかクラスの状態とか、勉強のこととか、彼女に頼んだらどうかしらね』という提案をいただきました。
思いは同じで、私からも２月ごろだったか、彼女に頼んであるんですよ。ね！足立さん。お忙しいでしょうけど、よろしくね。

住所変更のお知らせ

大崎紀子さん・・・〒１１２　東京都文京区白山４－３７－３８
０３－９４６－６４６６

大谷芳子さん・・・〒４５８　名古屋市緑区鳴海町上朝日出１７－２３５
０５２－８９５－１３９５

つぎに秋山智弘さんからのメッセージにつづいてアストロラマサイドストーリーです。

花の国から皆様へ

アストロラマサイドストーリーをお休みしてしまい、すみません。まだ２回だけなのに、いろいろな方からお便りや電話をいただいて驚いています。
「花の万博」の大詰めから開幕まで、会場通いをしていました。そこでヒマを見てこの原稿を書くつもりでいましたら、まあ、昼も夜もいろいろな事件が発生して・・結局大阪のホテルのデスクに原稿用紙をひろげたまま。いま東京へ帰って書いています。
「花博」のオープンは、中央ゲートの式典の場で迎えました。大阪万博の時も、太陽の塔の根っこのところで、万博作りの仲間たちと飛びこんでくる最初の入場者の群れを眺めていました。
人々が、パビリオンを目ざして、私の横を駆け抜けて行きます。それが作り手としての私の役割の終わる瞬間でした。恥ずかしい話ですが喜びとも悲しみともつかない涙がこみあげてきて、何も見えなくなりました・・・。
２０年たって、花博の同じシーン。感慨はありますが、むしろ駆け出した人々がころんでケガでもしなければいいな・・などと心配して見ていました。やっぱり大阪万博は格別でした。
「花博」では、全体計画にかかわった他、「芙蓉ミュージカルシアター」という館をプロデュースしました。ライブのミュージカルを毎日１０回公演しています。舞台から、突然人が空中に飛び上がったりしますが、何しろナマのミュージカルを６ケ月続けるのですから結構大変なんです。
しかし、博覧会は新しさがすべてだと思っている私にとって、アストロラマという巨大映像を作った後では、また映像というわけにもいかないじゃないですか・・・２０年たつとはいえ。アストロラマも格別なんです。
そうそう、サイドストーリーを続けなくては・・・。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

アストロラマサイドストーリー　３　　秋山智弘

「蒼い大地の神・・・土方巽」

土方巽（ひじかた　たつみ）さんは暗黒舞踊派の総帥であった。アストロラマ「誕生」でこの世に人類が初めて登場してくるシーンに出演していただいた。噴煙渦巻く蒼鉛色の画面に、不思議な人物が踊り出て、人間の誕生を告げたのだった。撮影地は、北海道阿寒、アトサヌプリ。硫黄山と呼ばれ、硫気といっしょに、灼熱の水蒸気が、ところかまわず噴き出していて、原始を感じさせる爆裂火口。１９６４年、記録映画のロケで訪れて以来、私の気に入った地点だった。
ロケ隊は、２１名。現地は無人の地域。電気もないので、大型発電車と照明用ライトを満載したトラックも含めて車両７台の陣容。東京から５日がかりで移動した。
土方さんは、ロケ隊を追って釧路空港経由で到着。早速打合わせ。そして撮影。
アストロラマ「誕生」のキーポイントになるシーンである。やがて、文明をもつに至る人類が、初めて出現する。原始人では常識的でありすぎる。アダムとイブなのか・・・それではマンガだよ。という議論がシナリオの段階であったりして、結局、人類の魂を肉体で表現できるタレントとして土方さんが選ばれたのだった。
撮影の４ケ月前から、東京目黒の土方スタジオを訪ね、アストロラマについて語り合った。大勢の弟子たちを率いてショッキングな公演をすることで有名な暗黒派の巨頭は、会ってみると、もの静かな痩身の紳士だった。しかし、何ものをも見すかすような澄んだ目は、いつも強い光を放っていた。
私たちは、すぐに意志が通じるようになった。アストロラマの大きさも、シナリオのねらいも、土方さんには、たちまち理解できたようだった。アトサヌプリの噴煙地帯も、彼の雰囲気にぴったりだった。

夕刻、日没直後、天も地もすべてが蒼くなる一瞬がある。昼でも夜でもないその蒼さこそ、人類出現のときだ。

土方さんと、噴煙に強力なライトをあてる。

混迷の中から、人間の精神が生まれ出る。

土方さんは、撮影のために、東京出発の前から食を絶っていた。英知を秘めた人類の象徴として、肉体に無駄なものがあってはならない、という土方さん自身の考えから、毎日わずかな水のほかは、一切口にしていなかった。

腰につけた呪術的な布の他は、裸身。肋骨が体に影をつけている。長髪を肩まで垂らす。

鼻筋に水で溶いた白い石灰で鋭い線。足首に白骨のような木片の飾り。素足に藁を巻きつけた履物。目だけがキラキラ光っている。

カメラの前に立ち、照明に浮かび上がった土方さんに、私は感動した。

・・・これは、大地から生まれた神だ・・・

カメラマンの中尾駿一郎さんが私を振りむいて「いいね。」と一言。中尾さんも心を動かされているのがわかる。

土方さんが思いがけなく静かな口ぶりで言う。「噴煙の中からこの崖に駆け上がることにします。そうして、私の体の中に梯子を掛けて、そこを降りてゆく。その次に私は古いタンスになって引き出しを開けますから・・・」あとは轟々と鳴る噴気の叫びにかき消されて聞こえない。意図は通じあっている。

「お願いします。」私は、スタッフに合図する。「さあ、いくぞ」。巨大なカメラが回る。痩せた土方さんの体がつややかに光って躍動する。

ワンカット。

見まわすと、あの蒼さはもう闇に溶けてしまっている。

「今日はここまで・・・。また明日、この瞬間をねらいましょう。」中尾さんが宣言する。重いカメラとライトが回収される。

雨にたたられながら、ロケは７日目に終わった。土方さんは断食を続け、体から一切の肉をそぎ落としてしまった。すさまじい気力でアストロラマに賭けてくれたのだ。

私たちは、真の芸術家に出合ったのだった。

撮影の終わった夜、土方さんの前に宿の奥さんの心づくしの料理が並んだ。周囲の人々まで心配しながら見守ってくれていたのだ。

新鮮な北海道の魚に土方さんは驚くべき食欲を見せた。眼にやさしさがもどってきていた。翌日、スタッフ全員で摩周湖を訪ねた。

神秘の湖を土方さんは、飽くことなく見つめていた。「いいものを見せていただきました。北海道に来たかいがありました。」湖を去るとき、土方さんが言った。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

１９８６年、土方さんはガンで倒れた。

最後の瞬間、身近かな人々や弟子を病床に集め、新しい舞踊を踊りながら逝ったという。

比類のない才能は、アストロラマのあの蒼い世界の向こうへ、踊りつづけながら行ってしまった。

会計報告

	摘要	収入	支出	残高
２．４．１	繰り越し			３８，７１５
〃	コピー代		３，０００	３５，７１５
〃	切手代		２，８１０	３２，９０５
〃	カンパ	３，０００		３５，９０５

切手のカンパ　　６，２００円分

同窓会ももうすぐですね。いまのところ、みどり館からの出席予定者は下記の方達です。

記

浅井義人さん、秋山智弘さん、岩間順子さん、泉　義一さん、岡本恵子さん、
大崎紀子さん、片上則子さん、小林雅子さん、末松具子さん、杉本聡子さん、
武上善明さん、滝水光代さん、田中照美さん、寺岡千秋さん、中野チヅ子さん、
長尾　保さん、藤村容子さん、堀美知代さん、前田　亨さん、林　恵子さん、
宮島尚子さん、宮川季子さん、宮元美智子さん、西尾晶子さん、柳瀬宏子さん、
吉田晴男さん、田村政美さん、桑原由紀子。

以上５月１日現在予定

会いたいお友達の名前、ありましたか？まだ日もありますので、出席できそうな方、迷っている方、思いきって出かけてみませんか？。

はい、６１号も盛りだくさんの紙面になりました。次号は同窓会の報告かな？

では、次号をお楽しみに！

大川幼年部だより

元気いっぱいの出発

4月15日 ――

学育・太陽の家の花だんで、赤・黄・白と色とりどりのチューリップが咲く中、各地より男の子14名 女の子13名 計27名の子どもたちが大川幼年部に入学しました。

お父さんお母さんから 幼年部のお母さんへと 放たれる時、大泣きした子何人かいましたね。でも車道を横切ると、皆コスモスの家目指して、自分の足で歩き出したのをみて、これが本当に自分たちで歩き出す第一歩なんだなと感じました。そして入学式、お父さんお母さんにあっても、もう大声で泣く子はいませんでした。

夜、毎年入学式当日の夜は必ず泣いてなかなかねないうが出るというのに、そういう子はひとりもいないんです。2日目も3日目も皆気持ちよさそうにスヤスヤねています。日中泣く子がいてもほんのちょっぴりで、とにかく泣き声はきこえません。

整理研では、ホールの壁にへばりついていた子も、グランドのすみっこですわりこんでいた子も 皆「今日、楽しかった」といいます。おもしろいですね。本当は楽しいだけなんだなって、再確認します。

入学してまだまもないのに、もう大分前からいるような そんな元気いっぱいの幼年さんです。

もうひとり 増えたよ

18日、北九州より坂梨義憲くんが入学してきました。昼ねおきに義憲くんを見つけるやいなや、「ねえ、この子も幼年部？」「なんて名前？」ときいてきます。「坂梨義憲くん、今日からみんなと同じ幼年部の子だよ」というと「わたー！」とか「ねねよしのりくん知ってるよ。だって楽園村で一緒だったもん」といってきます。それまで涙ぐんでた義憲くんも泣きやんで、すぐに皆の中に入って遊び出しました。友だちが増えるって、うれしいんですよね。

～ お母さんの日誌より ～

ホットケーキ整理研

今日の第一食のデザートは、ホットケーキでした。この夜の整理研は、ホットケーキの話でいっぱい！ ゆうたくんが、「ぼく、ホットケーキ食べたのがおもしろかった」といいました。そしたらたかのりくんも、「こんなにうまいホットケーキ、どこでつくってるのかな」 今度はくちんどくんも、「ぼく、ヤマギシに何回も来てるけど、ホットケーキ食べたのってはじめてだよ！」というと、すかさずふみちゃんとさよこちゃん「私たち、この前の大川の楽園村の時も、ホットケーキ食べたよね」「おいしかったよね」「いいなぁ、ぼく阿山だったけど、ホットケーキ出なかったよ」などなど、もうお母さんそっちのけでワイワイ盛り上がっていました。

おとなの感覚ではたかがホットケーキかもしれないけど、幼年さんにしてみれば、ホットケーキは大問題になっちゃうんだね。ホットケーキひとつでみんなの心がひとつになるのなら、そんな整理研も楽しいなって思いました。

畑のおとうさんと 記念植樹しました。

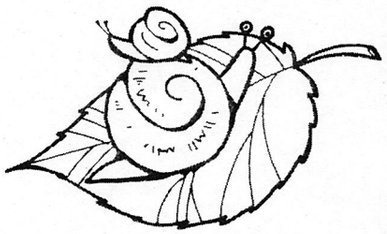
幼年部には2つの畑があります。ひとつは太陽の家のそばにあるはれはれえん、もうひとつは井戸田の畑で、なかよしえんです。このなかよしえんに記念植樹をしました。この日は午前中に畑のおとうさん、杉崎おとうさんに来てもらい、ひとり1本ずつ移植ごて（スコップ）をプレゼントしてもらい、その使い方を研鑽しました。「みんなにもう1本の手をあげよう。この手は今、みんなのからだにある手ではうまくやれないところをかわりにやってくれるそんな手だ。さあこの手をどう使うかな？」の声かけに、「やさしく使う」「ピカピカのまま上手に使う」「大切に使う」などの応えが返りました。そして午後、その移植ごてをみんな手にしてなかよしえんに行って、レタスの記念植樹をしました。植え方を伝える杉崎おとうさんを見つめる目は真剣です。さっそく植え出すと、やりたがり屋さんばかり。「ねえこれでいいですか？」「もっと植えたい！」と次々に声がかかります。これから一年かけての畑づくりが、とっても楽しみに思えるそんな記念植樹でした。

アストロラマ　Ｎｏ．６２

発行者　桑原由紀子　生駒市上町９－１２　☎０７４３７－８－１９６９

１９９０．６．５

人とのふれあいを大切にし、仲良しを深める生き方をしたい・・・そんな思いを託して、出し続けているアストロラマですが、５月１９日の同窓会では、年月を経るごとに、又、回を重ねるごとに本当にみんな仲良しになっていく様子を実感し嬉しく思いました。



全体同窓会では、千人余りの方が集まり、さすがの迎賓館も狭いなと感じました。

あいにくの雨でお庭が使えず身動きもできない程でしたが、お昼過ぎからは予報どおり、雨もあがって、皆思い々々に新緑の庭にでて、あちこちで写真を撮ったりおしゃべりしたり・・三時頃までほとんど立ちっぱなしで少々疲れました。

その後、みどり館メンバーは、田中照美さん（浅井）、藤村容子さん（高谷）に送り出されて、東洋ホテルへ移動し、みどり館だけの同窓会です。迎賓館に残って下さったお二人さま、有り難うございました。お蔭さまで後の心配をすることなく、東洋ホテルで楽しむことができました。

さて、こちらの出席者は３６名。何だかやっと家族水いらずに戻った感じでホッとし、お料理も座ったままでゆっくり味わうことができました。皆んなキラキラ輝いていて、男性軍からの

「とても２０年も過ぎたとは思えない。もう一度コンパニオンやれますね」

なんてお世辞も素直に信じられる程きれいでした。

長尾さんのお世話と、このアストロラマと末松具子さん（中島）の気目細かいフォローのお蔭で、欠席を考えてた方も思い直して出席して下さり、そして「やっぱり来て良かった」って言葉が誰の口からもこぼれ、今日が最高って思える同窓会でした。

今回残念ながら出席できなかった方、これからの企画を楽しみにしていて下さいね。

２０年前にタネをまき育ちはじめたみどり館仲間は、今しっかり根づき、葉を繁らせ成長しつつある・・・私の中ではそんなふうに思えます。皆様からのたくさんのカンパ、暖かい心を受けて、これからの「アストロラマ」が楽しみ、いま私の心はみんな大好き！雲ひとつないハレハレ気分です。

由紀子の同窓会報告でした。

「美保さんと歩こう会」の報告

同窓会の感激もさめやらぬ５月２６日の歩こう会、今回は末松さんが参加できなくて、貴方に任せるからって言われたものの、私もどこを案内してよいやらわからず、一番手っとり早く、しかも一番気に入ってる我が町を美保さんに見て欲しいと思って、近鉄富雄駅から真弓山長弓寺に寄り、高山竹林園まで歩きました。

案内のハガキを出しただけで何のフォローもしない私は誰が集合場所に現れるのかもわからず、待つこと３０分。

思いがけなく西宮さん、神谷さんが来て下さって大感激。前回の歩こう会ですっかり美保さんのファンになった母も喜んで来てくれました。

抜けるような青空と目にさわやかな新緑の山、田植えの準備がはじまった田んぼ、いろんな野菜が育っている畑を見ながらの五感散歩は日々の忙しさを忘れさせ、見慣れた風景もまた格別に移り、改めていい所だなって思えました。

長弓寺では、いつも仲良しさせていただいてる薬師院の住職に、ふだんは閉まっている本堂を開けてお寺の歴史を聞かせていただいたり、又二階の広間を貸していただき、ゆっくりとお弁当を広げることもできて、平均年齢少し高め（？）の今回のメンバーには、ピッタリのコースだったようです。

ここ長弓寺では、前号に載せた平桃子ちゃんのママ、平真知子さんが顔を出してくれたり、楽園村仲間の恩地さんが子連れで合流して下さり、またまた新しいつながりができて、皆大喜び。

真知子さんは、皆んなの輪に入ったとたん回りが活気づくような活き々々ママで、桃子の感性もこの母ゆずりって、西宮さん、美保さん、うなづいてらっしゃいました。

初参加の恩地さんも、すぐにうちとけ、美保さんの本は買って下さるし、途中バテぎみの皆んなを車で運んで下さったり頼もしくて有り難い存在でした。

とにかくアストロラマ仲間はすばらしい方ばかりで、私の言葉ではとても表現しきれなくて、もどかしい限りです。

高山竹林園は、茶せんの資料館や茶室があるのですが、５時の閉館時間を過ぎていて残念ながら見ることができませんでした。しかし、静かな庭に座って、ビールを片手に、西宮さんが一言「至福の気分だなぁ」にみんな同感。

大好きな人達と過ごした一日はまたまたハレハレ気分の一日でした。

読者の声

鯉のぼりいっぱいのアストロラマ、私のことたくさん書いていただいて光栄です。今、本を見ながらワープロのけいこ中。アストロラマや具子さんのワープロ便りをもう一度見直して、いつになったら・・・と感嘆しています。

秋山さんの万博開幕のところ読ませて頂くたびに鼻をすすり上げています。

西宮さんにも全くごぶさたなのに、いつも紙面で出会えて声まで聞こえてきます。

杉原美保子さんより

２０年前に一つの大きな仕事をやりとげた仲間で連絡をとりあってるのは、大変良いと思います。これはきっと１９７０年に万博があり、その感動が大きかったこと、また仕事をやった人々の意識の高さによるものだと思います。

私も万博を見に行きましたが、いまだにあの感動を超える博覧会には出会っていません。

鶴　秀生さんより

４月から中学一年を担任していますが、やはり何事も出発（たびだち）はいいものですね。緊張感と不安感とそして大きな喜びをかかえて、人間はいつも成長するんだなと、つくづく思います。

六川の幼年部の子供たちもきっと大きく成長することでしょうね。

門田光恵さんより

アストロラマを見せて頂き、一ページごとに万博の時への熱意と愛情とお友達との共感がこちらも伝わってきました。私にはないものでうらやましく思いました。

その時その時の気持が手にとるように書かれてありました。

池田徳子さんより

美保さんと歩こう会に参加させていただき、本当に楽しい一日を過ごさせていただきました。美保さんを中心にしたこんな素晴らしい人達の輪があり、その仲間に入れていただいたこと、本当に嬉しく思います。

「アストロラマ」大変楽しく、内容がすばらしく、暖かくほのぼのとしたものや、人と人との出会い、つながりのすばらしさ、桑原さんのお人柄等々・・。いろいろなものが感じられ、感動させられました。

小林節美さんより

風邪ぎみで横になっていた時、アストロラマが届き、じっくりと床の中で読ませていただきました。

「美保さん」の字に出会った時は、なつかしく心がほのぼのと暖かくなってきました。お陰様で読み終えた頃には元気な自分に戻っておりました。

桑原さんのセンスある文章、すてきですね。

沢田藤枝さんより

皆様、暖かい一言を有り難うございました。こんな気持ちが集まってできた「アストロラマ」。皆様の思いを私がひとりじめにするのは申し訳なくて、こうして載せたくなってしまいます。

これからも大いに書いて、読んで、楽しみましょう。

名前を見て思い出せる方、何人あったかな？私はみーんなの顔思い出しています。

６月２３、２４日は２か月ぶりに、沙代子に会えます。六川からの幼年部だよりもあわせて読んでみて下さい。

あるがままの自分を出せて、あるがままの相手を受け入れる真の仲良しの練習をあの子たちは今やっています。

武上さんからのプレゼント

武上さんから、同窓会の日に写した写真、写ってる人数分、焼き増しして送って下さいました。早速このアストロラマに同封して送ります。

武上さんや末松さんほか、当日カメラをもって写して下さった方、後の費用がかなりかかると思うのですが、皆さんどうすればいいでしょうね。

五月号 大川幼年部だより No.2

1990.5.20

四方を囲む みかん畑には 今 花が咲き出し. 村全体が その美しい香りに包まれようとしています。 散歩にでかけると. 「うわぁー. とってもいいにおいがする! これって みかんの花のにおい?」と. 花の香りに足を止めることもしばしばです。毎日 元気に すごす幼年さん. 1ヶ月の間に五感も磨かれ出したようですね。

数日前から コスモスの家の横にある林で遊び出しました. 結構急なところで初日は つくってもらった道に沿い歩いていたけど. 今ではもう 道のないところを登っては. 林の一番高いところから一直線に 駆けおりてくるというスリル満点の遊びもやり出しました。

たくさん遊んだ後の ごはんって おいしいんですよね。 ごはんもいっぱいたべて. みんなのお腹は カエル腹. もう すっかり村の子になりました。

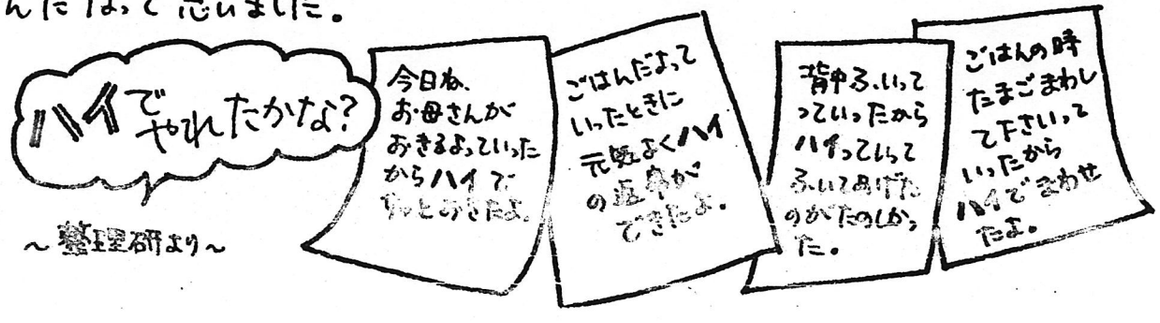
30人になりました

新しく 2人の子が 入学してきました。

- 前岡 剛至くん (和歌山)
- 間瀬 愛実ちゃん (香川)

あいみちゃんは 来て まだ間もないのですが. コスモスの家に入ってきた時. おもしろいことがあったんです。 それは…

ワーワーと泣いて入って来たあいみちゃんを 見つけるとすぐに 数人の子が 寄ってきて. 手をひいて 一緒に 遊ぼうとしはじめました。 さて. あいみちゃん. そんな 幼年さんと どうしたと思いますか? はやい はやい. あっという間に 泣き止み. 中へ入って 遊び出してしまいました。 見事というか. 本当に 仲良ししたいんだなって 思いました。



~整理研より~

散財まつりに行ったんだよ!!

今年から 幼年部も 散財まつりに参加させてもらうことになり 大川からもバスを出してもらい 春日山へ むかいました。 大分前から 「行きたい」「連れてって下さい」と 村のお父さんたちを つかまえては いいまくっていただけに. その反応は とびあがる程の よろこびだったようです。 前日の夜. 準備研では. "何をしに行くのか" と研鑽しました。 『ダダの社会を創ろうまつり』というテーマにもあったように. 遊びや食べに行くのではなく. 自分たちでまつりを創っていくんだ. ということを はっきりさせました。

まつり当日. やらせてもらったのは 大川の梵天丸の 前で みかんを渡す役割でした。「はい. どうぞ」で渡そうねと研鑽し. いざ はじめてみたら… おし寄せる人に 声の出ない子. 立ちつくす子. それでも渡し続ける子と いろいろでした。 あぶない程に おしてきた大人の様子が 幼年さんたちに どう写ったのかが 気になって. 翌日 散財まつりの整理研をしたら. 子どもたちは皆「みかん渡すのが楽しかった」の一色で. 次に出たのは. 「地球防衛隊や. トイレ青春隊 みたのが楽しかった」「ごはんがおいしかった」だけでした。 あのような大人の姿などよりは 散財まつりを 創っていた お兄さんお姉さんに目がいって 当然だな. って思いました。

そして 散財まつり以来 幼年さんで はやっている遊びは『地球防衛隊ごっこ』です。 女の子が 「地球防衛隊!」と呼ぶこと. ブロックで遊んでいた子も. じゃれてあそんでいた子も その手をとめ 「はーい」といって 出て来ては 「私たちは地球を救う…」とはじまりだす男の子。よほど 楽しかったんでしょうね。

女の子のデザートづくり

~日誌より~

グランドで よく お団子づくりをして遊ぶ女の子の姿を見かけるけど. 今日は 本格的なお団子づくり. デザートの "よもぎ団子" をつくりました。今にも雨の降り出しそうな中. 摘んだ よもぎを入れて こねる かたわらで 「わぁ. おもちみたい」「ぺったんこ ぺったんこ」と歌い出します。 コロコロ丸めるのは さすが ドロ団子で きたえた(?)だけあって きれいに仕上がります。 丸める時. おなべに入れる時. 真剣に. それでいて うれしそうに ひとつ ひとつ 大事につくっていました。 愛和館のガラス窓から 男の子が 「やった-! おもちだ」「お団子?」とのぞいています。 デザートづくりって つくる女の子は もちろん. 食べる男の子も 楽しみ なんですよね。

アストロラマ　Ｎｏ．６３

発行者　桑原由紀子　生駒市上町９－１２　☎０７４３７－８－１９６９

１９９０．７．７

日本中が湧いた礼宮さま、紀子さまの結婚の儀、すばらしかったですね。何だかあの笑顔を見てるだけで、こちらまでほのぼのしてくるのは、私だけではないようです。私たちも２０年前、訓練した笑顔を思い出して、毎日を過ごしたいものですね。

ところで笑顔といえば、そう六川の幼年部の子供達。入学から２か月あまり、初めての参観に行ってきたのですが、それはもう見違えるばかりの楽しそうな子供達になっていました。みんな丸々として、お腹も立派なカエル腹になって元気いっぱい。食欲もすごいすごい。そんな子供達を見て、心配顔で会いに行った親達もだんだん顔がほころび、しっかり抱いて、また放してやりました。

放して子育てしてるからこそ味わえた宝石みたいな時間、親になれて良かったなって思いました。やがてくる長い夏休みの内の一週間、『夏の子ども楽園村』に放して、こんな味わいしてみませんか？

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

前号でお休みだった秋山智弘さんから、メッセージとアストロラマサイドストーリーが届きました。

２０年たっても不思議にアストロラマの撮影のことを覚えているような気がします。途切れながらも制作現場で描いたメモがあり、その素気ない文章から、昔の情景がうかんできます。

これからもボツボツ書いてみますから、どうか読んでみて下さい

花博は思いの外、入場者が多く、私達の方がびっくりです。

場内の花が、春から初夏に代わり、色彩が全体に大人びてきました。これから夏の盛りが、花担当の人々にとって山場になるでしょう。

アストロラマサイドストーリー　４

秋山智弘

「神話の国のハニワたち」

♪♪今日わァ、今日わァ、世界の国から～♪♪　三波春夫が歌っている。

万博作りに懸命な私たちは、博覧会まであと何日という電光表示とこの歌が嫌いだった。誰もが、初めて取り組むプロジェクトである。見本や手本は一切ない。アストロラマは、本当に出来上がるのだろうか。１９７０年３月１５日に間に合うのだろうか。不安が心を横切ってゆく。

♪♪１９７０年の今日わァ～♪♪　心配をよそにロケバスのラジオは歌い続けている。

１９６９年５月、私たち撮影スタッフは、車を連ねて九州宮崎を目指していた。ここは神話のふるさとである。

誕生があれば死がある。アストロラマ「誕生」には、生を際立てる意味で、死の表現が必要だった。考えあぐねた末、ハニワを描くことにした。古代、偉大な人物の墓に、魂を守るための副葬品として、土器のハニワが埋められた。ハニワたちは、永い永い時間、ただ黙って死者を守り続けてきた。

そんなハニワで、アストロラマドームを埋めつくしたいと思った。しかし、今は、どのハニワも文化財になっていて、博物館や資料館から借り出すことが難しい。

スタッフのＭ君が考古学の出身で、耳よりな話を持ってきてくれた。宮崎市に、熱心な女性のハニワ研究家が居られ、全国のハニワの複製を作っている。万博のために撮影に必要なハニワを貸して下さるという。

先発したＭ君は、県庁にもかけあって、日向灘にのぞむ一ッ葉海岸の砂丘地帯を、撮影地として借り受けてくれた。

さらに、地元の土木工事屋さんと交渉してパワーショベルで、砂丘に穴を掘る手配も済ませていた。

まづ大きな、摺り鉢形の凹地を作る。中央にアストロラマカメラをセットし、周囲の斜面をハニワで一杯にする。ドームに映された時、周り３６０度にハニワ、天頂は空、というシンプルな構図で撮影しようという作戦である。

カメラカーを先頭にロケ隊が宮崎に到着して、早速作戦は開始された。

太平洋の波が打ち寄せる海岸の丘に、直径１０ｍ、深さ４ｍの穴を掘る。まるで蟻地獄だ。借りた７６体のハニワを、穴の近くまで運ぶ。素焼きの、壊れやすいハニワだけに、演出チームからカメラマンまで一人が一体づつ子供のようにハニワを抱きかかえ、バスに乗って大切に運ぶ。７往復した。

美術監督の渡辺和彦さんが、配置を考えながら、砂の斜面にハニワを植えてゆく。崩れやすい砂の傾斜と戦いながら、ドームに映し出された時の効果を最大にするために努力する。ハニワがそれぞれの位置におさまり、穴の縁からクレーンを使って巨大なアストロラマカメラが吊りおろされたのは、準備を始めて２日目の夕方だった。

翌朝早く撮影を始めることにして、保安要員が徹夜の見張りに立つ。

人影は少ないとは言うものの、宮崎市の郊外である。夜、砂浜をバイクで走り回る若者もいる。万一、ハニワの蟻地獄にでも飛びこまれたら大変なことになる。

夕食後、私も交替のため、宿から現場に出かけた。穴を遠巻きにして、俄か作りのバリケードが設けてある。海岸で拾った流木で焚き火が作られ、小さくチロチロと燃えている。

ロケ中にもギターを離したことのないＴ君が見事な腕前で弾きながら静かに歌っていた。

フォークソングが全盛で、歌うことが、若者たちのステイタスである時代だった。

風は弱く、かすんだ空に夜半の月がかかっている。Ｔ君の自作の歌に混じって、『真夜中のギター』『時には母のない子のように』など、時のヒット曲が、潮騒の音に吸われてゆく。

私は一人、穴の底に降りて見た。中央のカメラには、厳重な覆いがかけられていたが、ハニワはそのままである。

月の光の中で、ハニワたちが私を見つめていた。

黒くうつろな眼が、じっと私に向けられている。ゾクっと背筋を走るものがある。

恐怖ではない。ハニワたちの眼から発信される悲しみへの共感かもしれない。

兜をかぶり、武具に身を固めた若い武人のハニワ。アーモンドの形の切れ長の暗い眼が涙ぐんでいるように思えてならない。右手を頭上にかざし、左手を腰にあてたハニワ。

円い大きな眼の奥が深い。口をぽっかりあけて、何か言いたげだ。

「・・・・砂鎖、糸詩・・・・」

おや？　たしかに聞こえる。

「蘇巣唆査瀬・・・・・」

だれかが、ささやくように話している。

「左沙差素志佐岨史世・・・・・・」

ハニワたちだ！

「師視・・・・至使・・・・・・」

いや、月の光の力で、ハニワのまわりの砂が流れているんだ。

「氏須、士州主・・・・・」

かすかな音を立てながら、砂が滑り落ちてゆく。

私は、時空を越えた穴の底で、しばらく立ちすくみ、ハニワと一緒に青い月光をあびていた。

翌日は晴天に恵まれた。

私たちは、日の出から日没まで、１分間に１コマづつシャッターを切り、１日がかりで上映時間２５秒分のアストロラマ映像を撮影した。このシーンのねらいを生かすために予定していた微速度撮影だった。

２５秒の間に、太陽は東から西へ空を旅し、時々雲にさえぎられて明るさを変えた。

ハニワたちは、陽光の角度によって、表情を変えながら、静かに時の流れの中に立ちつくした。月の光とは違うものの、その眼は悲しく、うつろだった。

撮影を終わって穴から這い上がってゆくと、遠くからＴ君の歌が聞こえてきた。

♪♪ひとはだれも唯一人旅に出て
人はだれも人生を振りかえる
とっても淋しくて振りかえっても
そこにはただ風が吹いているだけ・・♪♪

過去から吹いてきた風が、背筋をゾクっとさせ、未来の方へふいていった。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

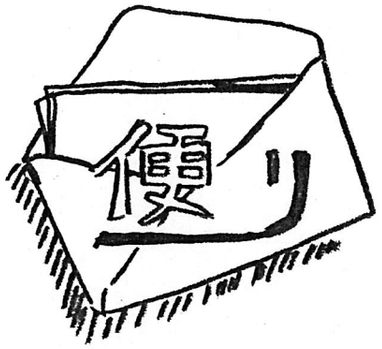
会計報告

	摘要	収入	支出	残高
２．５．１	繰り越し			３５，９０５
〃	コピー代		４，５００	３１，４０５
〃	切手代		６，８８８	２４，５１７
２．５．１９	カンパ（出席者有志）	５０，０００		７４，５１７
２．５．２６	カンパ	１０，０００		８４，５１７
〃	コピー代（追加送付分）		５，０００	７９，５１７
２．５．２８	カンパ	５，０００		８４，５１７
２．６．５	切手代		２，７８８	８１，７２９
〃	カンパ	２０，０００		１０１，７２９
２，６，１１	カンパ	２，０００		103,729
	切手のカンパ	７８４円分		

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

同窓会で物要りだったにもかかわらず、たくさんのカンパを有り難うございました。
充分、活用させていただき、アストロラマに形を変えて、お返ししたいと思います。

西宮の品川様からのお便りを紹介します。



先日は２０年ぶりに万博同窓会に出席することができ、懐かしい皆様にお会いして、本当に楽しい思いをいたしました。男の皆さんは、やや年をとった感じがしましたが、女性の皆さんは、みな生き生きとして、また落ち着きがあり、ほんとに美しいなぁと感じました。

アストロラマもゆっくり読ませていただきましたが、面白い記事がたくさんあり、皆さん文章が上手なのに驚きました。次ぎの何かの機会があれば是非、出席したいと思います。

ということで、品川さま、有り難うございました。
続いて茨木市の泉様のお便りから・・・

先日の同窓会では大変お世話になりました。お陰様で楽しいひとときを過ごさせていただきました。決してついしょうではありません。貴方たち女の人は、相変わらず美しくはつらつとしており、それに比べて、我々男性軍、随分くたびれておりました。
考えてみれば、女の方達は、頭が良くてしかも美人を集めたのですから、当然ですね。

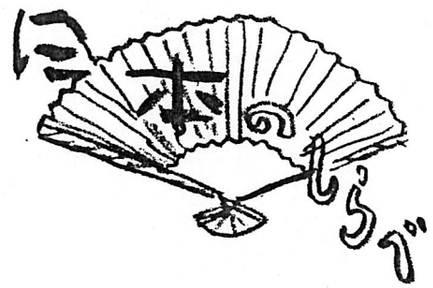
こんなふうに、お二人から嬉しいお便りをいただきました。男性軍から、こうして「美しい、美しい」と褒めていただくのが、いつまでも美しくいられる秘訣？だと思いませんか？　写真が入っていた方、泉さんのカメラの分を焼き増ししたものです。
泉さん、どうもありがとうございました。

「奈良ウオッチングＰａｒｔ４」の報告

６月１０日、「奈良ウオッチング」は、村田弘子さん（エキスポシスター）のお世話で、奈良の名園、依水園に行きました。
参加者は、神谷さん、山本簡子さん（ポルトガル館）、山本さんのお母さん、他奈良のメンバー合わせて、１５名くらいだったかな？
山本さんのお母さんは、とてもすてきな方で、ポルトガルで１年間、ひとりで過ごした話とか絵の話など聞かせていただき、神谷さんから、ＥＳＣＣの講師にお呼びしたいな、なんて声もでていました。

簡子さんからは、バァイオリンの話、立派なお母様とのエピソードなど、また木村さん（ソ連館）には、書道の話と共に、立派な「書」を見せていただいたり、それぞれに、すばらしい方ばかりで、いつもながら、いっぱい刺激をうけた一日でした。

花博でミニコンサート



６月２２日、咲くやこの花館で、邦楽グループ彩（あや）のミニコンサートをしました。持ち時間目いっぱい使って、７曲演奏。衣装は純白のウエィディングドレス。年を忘れて、ドレスに身を包み、舞台に立つ。
気分は最高。出来は上々？この感激があるから、やめられないねなんて、メンバーと話しています。
この次ぎは、７月２６日、政府宛でやります。

Ｔｈｅ　Ｂｉｇｍａｎから取材

世界文化社から出ている、ザ・ビッグマンという雑誌をご存じですか？
その雑誌の企画で２０年前の特集を載せることになり、２０年前と言えば、万博ということで、その当時の写真など見せてほしいという取材の申し込みがありました。
協会の神谷さんの紹介でみどり館を推薦されたそうです。
７月２日に東京から、こんな田舎まで取材に来られ、昔の写真など出して、おしゃべりしました。みどり館の写真も数点、持ち帰られましたので、もしかして雑誌に載るかもしれません。浅井館長さんには、事情を説明したのですが、皆様には、事後報告になってごめんなさい。
記事が出るのは８月号か９月号だと思います。
（いま７月だからもっと後かな？ごめんなさい。よく聞いていなくて。）

暑さも本格的になってきました。お体に気をつけて、楽しい日々をお過ごし下さい。
では、次号をおたのしみに！

6月号　1990. 6.25

六川幼年部だより No.3

ヤマギシズム学園六川幼年部

この頃、毎日の暑さに、子どもたちは Tシャツを脱ぎ捨てて林の木陰の中で元気いっぱい あそんでいます。今では、林の上から下までめいっぱい使い、最近は木登りがはやっています。この中に点々としてある山桃の熟れた赤い実をとろうと、今日もまた何人もの子が登ってます。木を登ってとる子も、ゆさぶって落とす子も、拾い集める子もみーんな口のまわりは真黒け！　口でいわなくとも顔が「食べました!!」っていってるねと大笑いしたり。

カニヤイモリ、カブトムシ、クワガタ…　いろんな虫たちとも仲良しであそんでいます。

お父さんと
びわとりもやりました。

六川にはみかんの木の他に、びわの木も結構あって、今月中旬頃から食べ頃になったびわをとりにつれていってもらいました。数回にわかれて行ったところ、ある班の子と一緒に行った村のお父さん、木にスルスルと登ってびわをとり出したのを見て、「なんだかおさるさんみたい。だって上手なんだもの」といった子がいました。自分たちは手をのばしてとどくところをとり、沢山持ってかえってきました。

第一回 幼年部父母参観を終えて…

23・24日と2日間皆元気な姿をお父さんお母さんに見てもらいました。交流会、散歩、第2食と楽しい時間が持てて大満足。整理研で「今日は一日どうだった？」の問いに皆声をそろえて「楽しかった」といってました。父母参観後の川あそびも思いやりやって今、すごくいい顔になりました。

畑でのできごと

7日 レタス収穫

4月、入学した当初に記念植菜したためのレタスの収穫をはじめました。「まんまるでおいしそう！」といいながらとりました。その日のメニューとして食事にでて、たくさんたくさん食べました。

8日 じゃがいもほり

※おいそさんの畑にできたじゃがいも、幼年さんでほらせてもらいました。「うわぁーでっかい」と叫ぶ子、いつもは畑であそんでしまう子もこの日ばかりは本気でほりまくったとか…。「ところでほったイモ男だった？女だった？」ときいてみたらキョトン！ある子が「知らないけどゴツゴツしてたよ」といってました。よくぞ見抜いたあのイモは男爵だったのです。

※老蘇さん＝村のおじいちゃん、おばあちゃん

はれはれえんの花ばたけづくり

石ひろいからはじめたはれはれえんも堆肥も入れて畝立ててもらいました。グラジオラス、ほうせんか、紅花、ダリア等々の球根や種をまきました。夏から秋にかけて色あざやかに咲くのが楽しみです。

13日 きゅうり初収穫

一雨ごとにぐんぐんのびていったきゅうりの苗も見事にその実をつけました。村のお母さんの作ってくれた収穫袋を首にかけ、はさみでチョッキン。愛和館へ運ぶ途中道で出会う人にもニコニコ笑って「きゅうりとったんだよ！」って話しかけている姿、とってもかわいいです。

19日～、草ひき

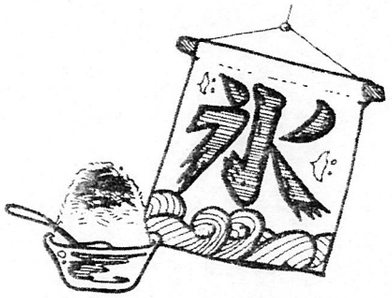
朝起きたらすぐズボン・モンペにはきかえて畑へ出かけて草ひきをしました。「草ぼうぼうにしような！」を相言葉に今日も草をひいては山につみ重ねてはりきる男の子。だまって黙々とひき続ける女の子。どちらもひきおわったらいい顔です。「畑の散髪したみたい。涼しそうだね！」なーんていう子もいました。

アストロラマ　Ｎｏ．６４

発行者　桑原由紀子　生駒市上町９－１２　☎０７４３７－８－１９６９

１９９０．８．５

暑中お見舞い申しあげます。
ほとんど体温に近い暑さが続いておりますが、お元気ですか？私の方、体はいたって元気で、クーラーも使わず、健康的な暮らしなのですが、気持の方がちょっとマイっています。というのは夏休みになってまわりをみれば、家族で楽しい夏休みの計画がいっぱい。私はといえば、自分の意志で子供を放しているものの、やっぱり寂しさはあるわけです。



夫と義母が秋田に行き、一人になったとたん、大波のように寄せてきた寂しさ、子供に会いたい気持がいっぱいで、気分はハチャメチャです。人からは「５才で子供を放すなんてエライネ、とかツヨイネ」とか言われるけど、実際は強くもエラくもないんですよね。どうしょうもなく泣けてきたり、何する気にもなれなくて、一日ボーっとしてたり、まありきたりの、イヤそれ以下の親やってるなって思うこといっぱいです。
こんな折り、六川に行った人から「沙代ちゃんに会ったよ。元気で幼年楽園村のお姉さん役をやってたょ」って聞いて、ああ子供は前向きでやってるんだな、私もしっかりしなくちゃと思い直したところです。

そしてまた、こんな私を励まして下さるような、どうしてこんなおもいまでして、子供を放しているのかを、思い起こさせてくださるような、お便りを尊敬する大先輩、西宮さんからいただきましたので、紹介します。

六川幼年部のお子さん方、みんな見違えるほど、楽しそうな子供達になっているのを実見し、実感されたのは、素晴らしいことですね。というのは、近頃の子供達の生活を見ていると、一般に家庭の親をはじめ、幼稚園でも小学校でも、自分で自発的に何かをしようとする意欲を、なくさせるような雰囲気と風潮しかないと思いますので、私達大正時代の学童に比べて、食べることも、友達と遊んだり、いたずらしたりするヒマも、場所もなくなっていて、ホントは不幸ではないかと、心配していました。
六川だよりのバックナンバーをヒックリ返し、ヒッパリ出して読み、参加している３０名の子供達の満足を思い、またそれぞれの６０名の若い親達が、子供の教育とは何なのか、考えさされる幸福振りを想像しました。
そして「良かった、良かった」とヒトリでニヤニヤ喜んでいます。そしてこのような、成育環境を小学校、中学校時代にまでも、延長してやって欲しいなぁと思わざるを得ません。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

西宮さん、どうも有り難うございました。

次に、いまの私から見れば、まぶしいくらい、ハツラツと生きていらっしゃる、足立杏子さん（住友童話館）のお便りを紹介します。

エドモンズ大学に入学して

足立杏子

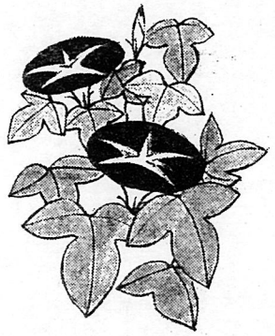
４月に入学して、はや４か月が過ぎてしまいました。その間報告せねばならなかったのですが、何しろ睡眠時間３時間、３度の食事も２度になり、の生活を強いられ、ペンをもつ時間は宿題に限られました。早朝４時半に起きて、６時１８分のバスに乗る生活です。
毎日、帰宅すると３時間は机にむかって宿題をやり、発表しなければなりません。

必ず自分の意見を書かないとＡはとれない。テーマは「女の役割」、「死刑について」「日本食で自分の好きな料理の作り方」「自分が関心を持った社会問題」「日本とアメリカの大学について」「日本とアメリカの教育の問題点」などなど。テーマが大きいとき、どこに的をしぼって相手に訴えられるかとか、効果的な文章の書き方とか、日本人とアメリカ人の文章表現の違いとか、いろいろ問題点にあたり、なかなか書けないときは、３時間程の睡眠時間しかとれない日が続き、大変しんどかったし、自分のレポートがパスしないでつき返され書きなおしになったり、苦労しました。それだけにパスして前に進めたときは、ほんとうに嬉しかった。

Ｒｅａｄｉｎｇは速読して、内容把握や、じっくり読んでＴｒｕｅ　ｏｒ　Ｆａｌｓｅとか、単元の内容をより深く別の角度から焦点をあててみたりと、授業に参加していないと、わからなくなります。Ｓ／Ｌは無声映画をみて、自分でストーリーを話したり、ｉｄｉｏｍｓを使って短文を作って発表、ｓｏｎｇｓを聞いたりする授業内容です。

期末テストは１人５分の個人面接がありました。

今までアメリカの大学は、入学は簡単だけど、卒業しにくいという話しを耳にしましたが、これを実感しました。すでに出席が悪かったり、してやめていく生徒は数名います。（出席しないとわからなくなるので、テストは点がとれない）３か月の短い期間だけれど、日本人は「察し」の文化に対して、アメリカ人は「主張」の文化だと感じます。自分で何事も訴えないと、理解してもらえない。相手から察してもらうことは出来ないのだと思います。



日本人は肝心なことを自分から言えない国民だなぁと感じました。このような特殊な学校では、まず自分のことを、下手でもいいから英語で表現出来るのが条件です。表現出来る意志があるかどうかです。下手を承知でしゃべるのは、大変勇気が必要なのですが。

最後に私は１クオータをすべてＡをもらいました。うれしいです。

∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞

足立さん、オールＡの成績、おめでとうございます。努力の結果ですね。お忙しい合い間にお便り有り難うございました。Ａをとるのがどんなに大変か、学校の内容も詳しく書いて下さったので、載せておきます。これから受験を考えていらっしゃる方、参考になりますね。

学期・・１年を４クォータに分け、１クォータ３か月単位で授業が行われる。
１クォータ合格すれば１レベル進級できる。従って現在は、Ｓｐｒｉｎｇ ｑｕａｒｔｅｒが終了しＳｕｍｍｅｒ　ｑｕａｒｔｅｒが始まったところ。

休み・・夏休みは２週間程度。学期ごとに５日程休みがあるので、年間１か月強の休みがある。

学費・・年間１，２００，０００円プラス消費税９，０００円。
本代約１２，０００円（たぶん１クオータ分）

学割・・阪急電車、神戸電鉄、北神急行は学割がききます。

クラス分け

入学式後、すぐクラス分けテストが行われる。リスニング（Ｌ）リーディング（Ｒ）グラマー（Ｇ）とライティング（Ｗ）と３部門に分かれ、トッフルテストで１問３０秒で解答というすさまじいスピードで行われるテスト。あれあれと思う暇なく終わってしまう。（Ｗ）は２つテーマを掲げられ、１つ選び、英語で自分の意見を書く。これは９０分。（Ｌ）は５０分テスト。（Ｒ）も５０分テスト。以上のテスト結果で１～５段階に分けられ、指定されたクラスに入る。１週間内に異議申したてをすれば、クラス変更できる。事務所の教務課の日本人担当者に申し出ればよいし、直接外人先生に申し出てもよい。なるべく外人先生に申し出て見とめてもらう方が、後々気分が良いように思われる。

授業・・Ｒ，Ｌ／Ｓ（５０分）とＧ／Ｗ（２時間２人先生がつく）のクラス。
１クラス多くて１５人以内のクラス。レベルに応じた本をもとに授業が展開される。先生によって授業内容がうんと違うので、先生の評価を友人同志で話し合う方が、第２クォータでの先生選びの参考になる。授業の初めに、各先生から成績のつけ方に関するプリントを配られ、その確認作業から始まる。

成績・・Ａ～Ｆ段階で、Ａ～Ｄまで進級可能、Ｅ，Ｆは落第。Ｃが普通でＡはなかなか取れないそうだ。配点項目は、宿題、出席、授業参加、Ｑｕｉｚ（テスト）中間テスト、期末テストでそれぞれパーセントで示されている。テストにはパーセントと段階表示で自分の点数がわかる。

出席・・細かく注意事項があり、出席が悪いとまず進級は無理（いくらテストの点数がよくても）。しかし出席して講義を受けないとテストでまず点は取れない。

授業参加

授業中の発表回数及びその発表内容、まちがってもよいから発表する。
（自分の意見をいうので、良し悪しの判断は別）。

Ｑｕｉｚ（テスト）

日本では小テストにあたるのだが、内容はうんと違って大変重要、単元が終わるごとにＱｕｉｚがある。３～４日程度で単元が終わり、３科目なので絶えずＱｕｉｚがあり、もう大変なのです。

宿題・・かならず宿題は出る。例えば（Ｒ）は１週間に本を読んでその内容と自分の意見、それに単元のｅｘｅｒｃｉｓｅｓをする。Ｌ／Ｓはアメリカ学生とアメリカンカルチャーについて質問してレポートする。Ｗ／Ｇはすごくしんどかった。Ｊｏｕｒｎａｌは１週に３つテーマが出されて、それについて、レポート用紙に自分の考えを書く。Ｔａｓｋは指示に従って文章形態を考えながら指示されたテーマについて自分の意見を書く。Ｇｒａｍｍｅｒのｅｘｅｒｃｉｓｅｓをする。

中間テスト

１か月半程になるとこれまでのところをテスト。決して習った通りの文章など出ない。

期末テスト

３か月間の総テスト。

成績発表

６項目を完全にやりこなせ、すべてＡをとると、１Ｑｕａｒｔｅｒの成績はＡがつく。

以上

最後に足立さんからのメッセージ

家庭教師の職を探しています。

ということで、連絡は

☎０７２７－９３－６９０２（足立杏子）までお願いします。

会計報告

	摘要	収入	支出	残高
２．７．７	繰り越し			１０３，７２９
〃	コピー代		４，５００	９９，２２９
〃	切手代		７，６６３	９１，５６６
２．８．１	カンパ	３，０００		９４，５６６

いけばなインターナショナル神戸支部で演奏

７月２６日、「邦楽グループ彩」の２回目の花博公演も無事終わり、私達の中では、花博も終わったような寂しさです。と言っても、又新たな喜びもできました。

それは来年１月、「いけばなインターナショナル神戸支部」での演奏を依頼されたことです。

坂上栄子さん（ガスパビリオン）に推薦していただき、神戸支部のイベント担当の方が、政府苑に私達の演奏を聞きに来て下さって決まった次第です。

今からとても楽しみに練習に励んでいます。坂上さん、どうも有り難うございました。

「邦楽グループ彩」は、流派を問わず邦楽を楽しみたい、身近な音楽として広く知らせていきたい、音楽を通じて、いろんな方と交流し仲良しを深めたい・・そんな思いを込めて、２～３か月に１度の割りで、地域でミニコンサートをやっています。

内容も自分たちで考え、ふだん着で聞きに来てほしいとか、たまには着物を着るチャンスとして、お茶会ふうにしようかとか、お花の展示と併せて、目も耳も楽しんでいただこうとか、ない知恵をしぼってアイデアを出しあい、作っていきます。そんなふうにして仕上げる楽しさも又、格別です。

皆様のイベントでも、ジョイントできそうなものがあれば、よろしくお願いします。

幼年部だよりが楽しみ

このところ、アストロラマにくっつけて送らせていただいてる「幼年部だより」を楽しみに読んでいます・・というお便りをいただき、嬉しく思います。私も六川からこれが届く度に、「わぁ、いろんなことやらせてもらってるなぁ」って思います。どんなことでも、研さんしながら進めていく姿勢は私達も見習いたいものです。

言われたからやるとか、褒められるからやるじゃなくて、その子自身がやる気になってやっていく・・これが何をやっても楽しくやれる元じゃないかと思うので、親としても、その辺をはっきりさせながら実践していきたいです。子供に目指される親になるには、親業も真剣にならざるを得ません。子供の危機が叫ばれている今こそ、一緒に考えていきませんか？

7月号 六川幼年部だより

1990.7.25

No.4

ヤマギシズム学園六川幼年部

朝早くから夜おそくまで、せみの声がきこえます。女の子の生活室の前のプランターには朝顔が今を盛りと色とりどりに咲きなかんでいます。夏真盛り!! 幼年さんたちは毎日林でグランドでプールでと元気いっぱいあそんでいるからもう真黒け! 入学してきた頃のあの白さはどこへやら…今、はやりのあそびはせみとり。林はせみの宝庫です。いろんな声のせみがいます。オヤ? ききなれない声のせみ… と思ったら幼年さんが木に登ってミーンミーンとなきまね。 とにかく思いやり楽しんでいます。

畑、だ〜いすき!! 野菜収穫だ〜いすき!!

今、なかよし園は、夏野菜がどんどんなりだしました。毎朝きゅうり、ミニトマト、ピーマン、ナス、ししとうをとってます。「これとってもいいですか」「まだはやいんじゃないの?」と自分たちで研さんしながらすすめています。とうもろこしや、スイカをみては、「ねえ、まだとらないの? もうおいしそうみたい」なーんていったりして… 畑へ行くのを楽しみにしています。

ようねんぶにきてよかった!!

Pくん: ぼくようねんぶにきてよかった。だって毎日楽しいことばっかりだもん。プールでしょう、器楽でしょう… etc

Kちゃん: わたしようねんぶにきてよかった。食事じゅんびや衣類たいがやれるもん。

Tくん: ぼくようねんぶにきてよかった。だって学育のお兄ちゃんとあそべるもん。ぼくも学育になりたいなー!

今月のできごと

1〜8日 7月度幼年楽園村

六川ではじめて毎月楽園村を開きました。マラソン大会、すもう大会、はれはれ、子集まれなどでお兄さん、お姉さん役やりました。

9日〜 布団しき隊開始

「ワーイ! ふとんしきをやらせてもらえるヨ!」とよろこびはりきってはじめました。

9日〜 器楽はじめる

スズ、カスタネット、タンブリンで「ねこふんじゃった」をとり出し、18日の夏祭、館仲良し会で発表しました。

19日 海水浴へLet's Go!!

車で約30分、近くの海へお弁当もっていきました。もう大はしゃぎ! デザートはなかよし園からその日の朝とった大きなスイカ。みんなまっくろけに日焼けしてかえりました。

22日〜 グランドのプール開き

うれしいプール、林のお父さんがつくってくれました。使い方の研さんもok! 毎日元気いっぱい泳ぎまくっています。

ソフトクリーム!!

おまちかねのデザート登場。みんな大喜びでいただいてます!

21日〜 夏の幼年楽園村

この夏3回ある幼楽、まず今回は10人の子が参加しました。スタッフのお母さんが「幼年部の子がいるとはりきりていいね」とおっしゃってました。かなりやる気でやってます。→

布団しきやりたい! パクパク準備隊やりたい! みがき隊やりたい! とみんな積極的に動いているとか…

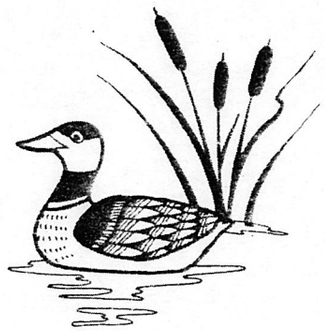
楽園村ではお兄さんお姉さん役をする研さんがしっかり入っているみたい

アストロラマ　Ｎｏ．６５

発行者　桑原由紀子　生駒市上町９－１２　☎０７４３７－８－１９６９

１９９０．９．２５

皆さまこんにちわ。各地に大きな爪跡を残して、台風１９号が去り、抜けるような青空が広がっています。皆様のところは大丈夫ですか？
さて、私の初めての海外旅行の報告をのせて、６５号をお届けします。



「箱入り奥さん」の　アメリカ旅行記

旅行のきっかけは、英会話仲間のマリが、メイン大学に留学している友達に会いに行きたいが、誰か一緒に行くひといないかしら・・・という話しを聞いてから。マリは帝塚山大学の４回生。バルサムのことを思い出した私はつい、「行ってみたいなぁ」と声に出したのがことの始まり。英語の先生にも「今がチャンス、是非行ってきなさい」と勧められて、パスポート申請に行ったのが出発３週間前。先生は出発まぎわまで、チケットの世話、ホテルの予約、お金のこと、などこまごましたことを教えて下さり、マリとお揃いの旅行カバンまで貸して下さって送りだしてくれました。

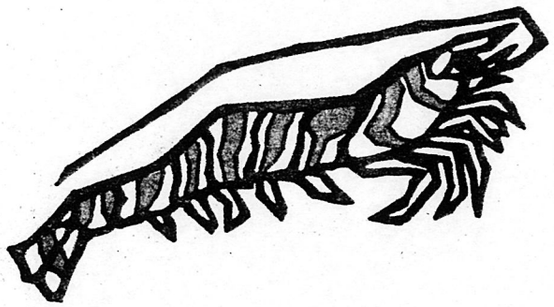
９月１０日、末松具子さんに送られて、いよいよ出発。期待と不安を胸に１：３５発のノースウエスト機に乗った。予定ではロスまで行って、ボストン行きに乗り換え、ボストンでバルサムに会い、その後ＭＡＩＮＥ州Ｂａｎｇｏｒまで飛び、予約してあるホテルに入るはずだった。ところがロス空港が濃霧のため着陸できず、２時間近く遅れて到着、急いで入国手続きを済ませて、次ぎのフライトに間に合うか確認して、指示されたゲートで待つこと２時間あまり。

ところが来たのはソウル行き。びっくりしてカウンターで聞いたところ、ＮＷのミスだったことがわかり、とりあえずミネアポリス経由でボストンまで行くフライトに乗せてくれた。そしてＢａｎｇｏｒのホテルをキャンセルしてもらい、ボストン空港バルサム宛にメッセージを頼み、ミネアポリス行きに乗った。そこで乗り換えて、ボストンについたのが、夜中の１２時半。ＮＷの案内所で「今夜のホテルは？」「バルサムへの連絡は？」「荷物は？」と次々質問する私達に係りの人は一つづつゆっくり答えてくれた。

ホテルはＮＷ持ちでＣｏｍｆｏｒｔ　Ｉｎｎに。バルサムにもその場で電話をしてくれた。バルサムは空港で４時間も待ってくれたそうで、ひたすらごめんなさい。

とにかくＢａｎｇｏｒから帰って会うことにした。荷物だけはＢａｎｇｏｒに行ったみたいで、私達はハンドバッグ一つでホテルへ、もう深夜２時近かった。長い一日だった。

翌１１日、移動先のＢａｎｇｏｒのＣｏｍｆｏｒｔ　Ｉｎｎを２泊予約して、１０：３５発でＢａｎｇｏｒへ。この飛行機はメチャ小さいプロペラ機、乗客４人の内、２人は途中Ａｕｇｕｓｔａで降り、私達だけを乗せてＢａｎｇｏｒに到着。二人とも酔っ払ってフラフラ、昨日のうちに届いていた荷物を受け取ってタクシーでホテルへ。夕方、留学生のサチとエミが来るまで、眠り込んでいた。二人に会えて今回の旅行の第一目的達成。



大学の話を聞きながら、４人で夕食、明日３時に会う約束をしてホテルに帰り二人ともバタンキュー。

翌１２日は朝早くからＢａｒｈａｒｂａｒまで行こうっていってたのに、目がさめたら８時すぎ、マリの体調も良くないので、あきらめてゆっくり朝食をとり、ホテルのまわりを散歩。このあたりは別荘地だそうで、老夫婦の旅行客が多い。

２時半ごろタクシーを呼んで、メイン大学へ、入口に大きな地図があり、その広さに驚いた。運転手（女性）が約束の場所を探して連れて行ってくれると、サチとエミが待っててくれた。そして４時からの授業に一緒に出られるよう先生に頼んでくれて、思いがけず私達は教室に入り、国際色豊かな学生達に混じって先生の話を聞くことができた。私の英語力では、６０％ぐらいしか理解できなかったけれど、とてもいい思い出になった。その後写真をとったり、寮を見せてもらったり・・ちょうど寮生達がバーベキューパーティーをやっていて、私達も便乗、夕食代を浮かせてきた。勉強は大変だと思うけど、エミもサチも思いきり留学生活をｅｎｊｏｙしているように見えた。

翌１３日、Ｂａｎｇｏｒにいても何もないので、再びＢｏｓｔｏｎのＣｏｍｆｏｒｔ　Ｉｎｎの予約を取って、一日早く帰ることにした。１１時の飛行機に乗るべく空港へ、またあの小さいプロペラ機に乗るのかと思うと、気が重かった。

あきらめて乗ったものの、二度、三度と滑走路まで出ては引き返してくる。今度はＢｏｓｔｏｎが濃霧のため飛べないという。どうしょうもなくひたすら待つだけ。３時すぎ、ＮＷはあきらめて私たちをデルタ航空の大きな飛行機に乗せてくれて、夕方６時過ぎ、やっとのことで、霧のＢｏｓｔｏｎ　Ｌｏｇａｎ空港に到着。そこでホテルのバスを待つこと１時間半、待ってばかりの旅だ。まる一日かけてＢａｎｇｏｒからＢｏｓｔｏｎへの移動が終わり、バルサムに一日早く帰った旨を連絡してベッドに入る。

翌１４日、１１時にチェックアウトを済ませて、ロビーでバルサムを待つこと４時間。やっとバルサムのあの笑顔を見た時は、涙が出るほど嬉しかった。これで旅行の第２目的達成。さんざん待った苦労も忘れてバルサムの家へ。３０分ほど走るとＡｒｌｉｎｇｔｏｎ、そこは森の中に芝生がありその上にメルヘンチックな白い家が点々とあり、まるで絵本の世界、その美しさにまづ感動した。

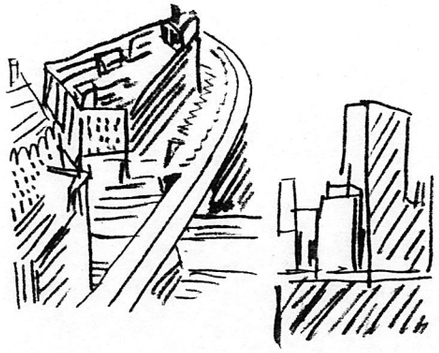
バルサムに会ってからは、美保さんはじめ、具子さん、栄子さん、弘子さん、杏子さん、ゆきえさん、はどうしてる？って、彼女の口から次々日本の友達の名前が出てくるのにびっくり。バルサムはゆっくりわかりやすく話してくれるので、よくわかったけれど、自分の思いが充分に表現しきれない私はいつももどかしかった。マイケルも随分大きくたくましくなっていた。

遅い目の昼食を頂いた後、日本大好きというお隣りのＭａｒｉｅさんのお家へ連れてってもらった。Ｍａｒｉｅさんは８０才で一人暮らし。とても若々しくて、お買物にも病院にも自分で車を運転して出かけると聞いて驚いた。一瞬美保さんのシニアの自立の話を思いだし、うちのおばあちゃんを思いだし、なんでこうも違うのだろうと思った。

さすがに日本好きのＭａｒｉｅさんの家は日本の品物が一杯。そのセンスのよい飾り方に感心・・思わず日本にいるような錯覚を覚えた。きわめつけは裏庭、緑の芝生の上になんと朱塗りのタイコ橋、側に鶴が立ち、花が咲き、まったくの日本庭園ができていた。花は造花なんだけど、Ｍａｒｉｅさんはこれに毎日水をあげて、自分の日課にしているのょとバルサムが笑って教えてくれた。木々には色とりどりの鳥（造りもの）を止まらせ、庭はいつも春の雰囲気、これを家の中から眺めて楽しんでいるという、Ｍａｒｉｅさんの若さの秘訣がわかったような気がした。私たちは毎日Ｍａｒｉｅさんに会った。

バルサムの家にいる間、食卓にはいつも手料理がいっぱい。私はいつも食べきれなくて、バルサムの悲しそうな顔を見ながら、ごめんなさいを言ってた。何でも本当においしかった。

１５日、バルサムは、ＭＩＴでＤｒを取るため勉強中の日本人の友達、みおりさんを紹介してくれた。私たちはやっと日本語が使えるようになって少しホッとした。



アメリカに来て初めて観光らしい一日、みおりさんと一緒に、Ｊ．Ｆ．Ｋｅｎｅｄｙ　Ｌｉｂｒａｒｙと Ｂｏｓｔｏｎ　Ｍｕｓｅｕｍへ。ここは４時半閉館もう少し時間が欲しかった。あと公園を散策したり、車の中からＢｏｓｔｏｎの町を見たり・・美保さんの本に出てくる風景が目の前にあった・・・歴史を感じさせる建物、白いヨットが浮かぶＣｈａｒｌｅｓ　Ｒｉｖｅｒ、ＭＩＴのドーム型の建物、Ｂｏｓｔｏｎの町はとても美しかった。夕食はみおりさんも一緒に、ワインをいただきながら遅くまで、楽しく過ごした。

翌１６日はＢｏｓｔｏｎ最後の日、マリが欲しがっていた皮ジャンを探しに、Ｈａｒｖａｒｄ　Ｓｑｕａｒｅのアーミーショップへ。初めて地下鉄に乗った。バルサムとマイケルが一生懸命探してくれたにもかかわらず、マリの欲しい品物はなかった。

夕食後、帰りの準備をしていると、重いだろうけど、日本の友達に持って帰って欲しいといって、いっぱいお土産を持たせてくれた。これは具子に、これは弘子に、栄子に、ちさとに・・と日本のおふくろさんを思わせる心遣いに感謝の気持がいっぱい。

ちさとさんは、Ｂｏｓｔｏｎでお琴を教えておられたとか、２か月前に日本に帰られて今は、なんと私の家から、車で５分のところにいらっしゃるそうで驚いた。美保さんやバルサムを通じて友達の輪がどんどん広がっていくのが嬉しい。

バルサムの家に来てからの毎日はあっという間に過ぎてしまった。

１７日は５時に起こしてもらい、空港まで送ってもらった。別れがたくて涙が出た。

行きのフライトはさんざんだったけど、帰りは順調にとんで、１８日夕定刻どおり大阪空港に着くことができた。

まったくの箱入り娘から箱入り奥さんになって１５年。はじめて箱から出た私は、２２才のしっかり者のマリに頼りっぱなしでした。それでもツァー旅行では味わえないことを、いっぱい味わったし、お友達もできたし、美保さんの本も一冊売れたし、私としては大満足、また行きたい！

本当にたくさんの人に助けられて、今回の旅行ができたと、改めて感謝の気持がいっぱいです。

ありがとうございました。

おわり

今回は、私の報告と、六川幼年部だよりをお送りします。では近いうちに、秋山さんの面白いアストロラマサイドストーリーを載せて、次号を出しますので、お楽しみに！

月号 1990. 9. 5

六川幼年部だより

No. 6

ヤマギシズム学園六川幼年部

ゆうゆうと飛ぶ赤とんぼ．虫たちの美しい声音．吹く風に秋の気配を感じます。そんな夕暮れ時．グランドであそぶ子どもたちの姿は．なんとも言い知れぬ趣があります。

3泊4日の家庭研さんでは皆．家で思いきり楽しんできたようです。とってもいい顔で帰って来ました。

さあ．いよいよ2学期のスタートです。
班が変わり．食事テーブルも変わりました。また．学習室の本も．春夏ものから秋のものへとなり．皆本読みを満喫しています。学習も始まり．もう少ししたら運動会も始めます．いろんな側面から自分の中に一歩踏み出す時です。それぞれに力をつけていくでしょう。
子どもたちも楽しみにしています。

たのしかったヨ!!

夏の ようねんらくえん村

前期・中期・後期と．それぞれにみんな楽しんだ楽園村。
そのなかみをちょっぴり紹介します。

2日 川あそび

上屋（宿舎）の前を流れる川であそびました。大きな石がいっぱい．メダカもいっぱい。思わず泳いでしまった子もいました。

4日 マラソン大会

幼年の家～グランドの往復．
学育のお兄ちゃん・お姉ちゃんにおいつけという感じで．皆沢山走りました。幼年部のトップはゆきちゃん!!男の子も続いて20周は走っていたようです。

5日 野外食

きゅうり．トマト．とうもろこしはおひのもの。え!!ナスの丸かじり?
もうです。やりました．おいしかったってす!

6日 運動会

男女にわかれて．女の子はそれいけパクパク準備隊のエプロン・三角巾がかわいかったです。男の子はつなずもう．気合もバッチリ．とっても たくましいところをみせてくれました。

7日 はれはれっこの集い

1週間の仕上がりはみごと！泣いてばかりいた子もニコニコでうたの発表です。もちろん幼年さんが先頭きって元気いっぱいうたってました。幼年部もう日の発表や楽器の発表をやらせてもらいました。

はれはれみーつけた

～たいけんくんの場合～

いろんな場面で．全員がそれぞれにはれはれをしていたけれど．中でもやっぱりスゴイ!!といわれたのはたいけんくん。そのはれはれぶりは…．スタッフの間で．「この子友だち出来たかしら」と思うような子でもきいてみると「たいけんくんと友だちになったヨ」という返事がかえってくる。そしてなんと青年研修所のおねえさんまでをも変えてしまったのです。おねえさんもやる気満々で出発。彼の仲良しの力ってすばらしいですえ！

今．はたけでは…

7・8月と夏野菜をどんどん実らせてくれたなかよし園も．秋から冬にむけての準備がはじまりました。学育のお兄ちゃんたちもおこした畝の石ひろいをすすめています。幼年さんは．2日続けて津本Gへ行き堆肥の袋つめです。山とつまれた堆肥の上にのぼって．男の子がみで女の子が袋を持ち．どんどんすすめました。この堆肥は畑にまかれます．あと数日で．また幼年さんの手によって畑にまかれ．種まきや苗うえがはじまるのが楽しみです。

ようねんぶ やってきたよ!!　～家庭研さんより～

8/26～29は家庭研さんでした。帰ったその日に整理研で受け入れ研をしてどんなことをしてきたのかきいてみました。その発表にあったことでのベスト3です。

1. 食事準備
2. みがき隊（特にお風呂）
3. 布団しき隊

［その他．女の子でごはんやデザートを作った子も多かったです］

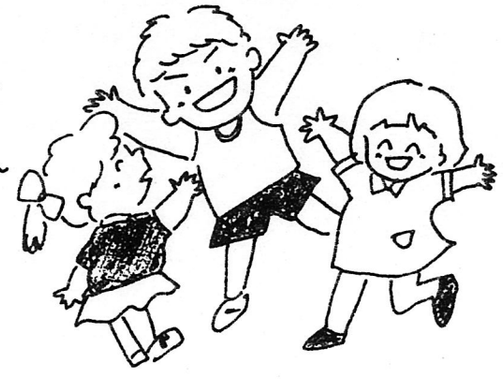
おどろいたことにこれら幼年部でやっている生活隊を家でもやれたことが楽しかったとまず最初に発表し．次に○○○へ行ったとか○○くんと○○ちゃんとあそんだというのが出ました。そしてKちゃんは「私．おうちでも幼年部してきたよ」M くん．「ずっと最後まで．はいでやってこれたよ」といってました。もうどこでも幼年部の生活でやれていく子に育っているようです。

てしごと

8月
- 19日　愛和館仲良し石研での発表
  うた「ひまわりさん」「うたえバンバン」
- 24日　おたん生日会
- 26～29日　家庭研さん

9月
- 1日　新入生やって来る
  - 西藪真晞くん（大阪）
  - 角谷知佳ちゃん（宮崎）
- 4日　学習をはじめる

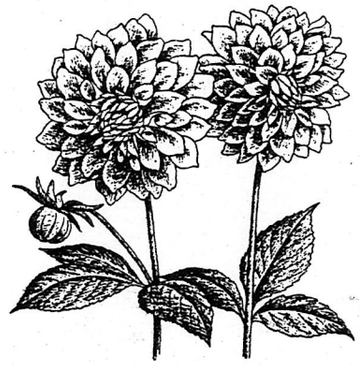
まさきくん．ちかちゃんの入学をみんなとってもよろこび．来るのを待っていました。2人もすぐにみんなにうちとけ．もうすっかり仲良しになりました。



アストロラマ　Ｎｏ．６６

発行者　桑原由紀子　生駒市上町９－１２　☎０７４３７－８－１９６９

１９９０．１１．１０



秋ですね。皆様お変わりないですか？
１０月２７．８日、２回目の父母参観で、みかんの色づく六つ川に行き、沙代子に会ってきました。会う度にたくましく（？）なって、どこから見ても村の子です。

思いきり遊んで食べて、暮らしそのものが育つ場となっています。ほんとに親の側にいるよりスクスク育っている子を実際に見て、親って何だろうと思ってしまいます。

親が子供にしてやれることで、一番困難なことは、親の重力圏から放してやることではないでしょうか？そんなところを実感しているこの頃です。

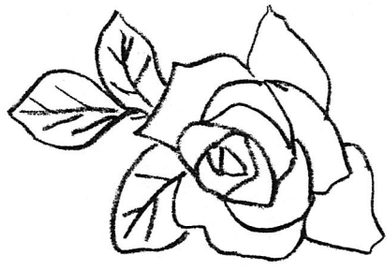
やる気のある子が、どんどん育っているヤマギシの村を観る機会として、１１月２３日から２６日まで、文化祭が催されます。案内チラシを同封しておきますので、興味のある方行ってみてはいかがですか？

美保さんからの嬉しいニュース

７月にチェコに旅した美保さん、「地図をひろげて、ホテルを探していたところへ、“Ｍａｙ　Ｉ　ｈｅｌｐ　ｙｏｕ？”と１８才の青年。彼が一日半案内してくれました。チェコも今年から外国へ旅行できるようになったので、４月に１か月招待しました。彼は外交官の息子でした。いい青年です。もしよかったら泊めてあげて！」ですって。

私の方は、喜んでお手伝いさせて下さい、です。読者の皆様いかがですか？
彼は、いま英語を一生懸命勉強中だそうです。

花咲く星の物語・・・



花博もあと数日となったある日の夕刊に、
「夢を与えたミュージカル・・花咲く星の物語」の文字を見たとき、思わず「秋山さんバンザーイ」って言ってしまった。秋山さんがプロデュースされたこのミュージカルを、２００回以上も観た大阪の小４の女の子、長い間小児ぜん息で苦しんでいたこの女の子の症状が、このミュージカルをみることによって、医者も驚くほど良くなったとか・・

私も秋山さんにお願いして、一度は夏休みに帰っていた娘と、二度目は末松さん達万博仲間と、芙容ミュージカルシアターに入れていただきました。

何かに感動するという気持がだんだんうすれていくこの頃、私の中にも美しいものを「わぁ　何て美しいんだろう」と思える心を呼びさませ、忘れ物を思い出させてくれた・そんな気がした。

作った人、演じる人、観る人が一つになったミュージカル、ほんとうに素晴らしかったです。秋山さん、有り難うございました。

では２０年前と変わらぬ熱い心を持ち続けていらっしゃる秋山さんのアストロラマサイドストーリーを続けます。

アストロラマサイドストーリー　５

秋山智弘

「汽笛一声地獄列車」

アストロラマ「前進」では、やがて消えてゆくだろう蒸気機関車（ＳＬ）で１シーンを飾りたかつた。

演出部のＦ君に頼んだ。
「日本のどこかで、アストロラマカメラを乗せて撮影させてくれるＳＬ路線を探してくれないかな。ただし、平地をただ走るだけじゃだめだ。トンネルがあって、鉄橋があって、川を渡るとまたトンネルで、紅葉があって、農家があって、ほら、お山の中ゆく汽車ポッポって歌があるだろう。あのイメージが欲しいんだけどねぇー。」私の要求は、幼児のようにひどく我がままなものだった。

Ｆ君はロケのスタッフとは別行動でＳＬさがしに駆けまわった。
彼は演出家を目ざして勉強中の新劇青年である。今はアストロラマチームを手伝って、制作進行係をつとめている。
背が高い。くっきりとした顔立ちで眼が涼しい。喉ぼとけが大きく、バリトンがよく響く。実は役者になりたかったんです・・。私に打ちあけたことがある。交渉が上手だ。相当そそっかしいが、大低のことはまかせておける。
しかし、ＳＬ探しは苦労の連続だったらしい。そのＦ君が帰ってきた。
「何とか行けそうなところを見つけました。」
場所は足尾（あしお）線。群馬県桐生から終点の藤間まで４４．１Ｋｍ、狭い谷を縫ってゆくひなびた路線だという。
「問題がありまして。」Ｆ君が云った。
「難問かね。」心配して私がきいた。
「いや、それほどでもないんですが、実は貨物の運賃で、カメラと車は乗れるんですが、人は乗せないことになってるんです。」
「じゃあ、カメラの操作ができないわけね。」
「そうなんです。」これは困った。
「リモコンというわけにもいかないね。」
「ええ、途中でフイルムチェンジが必要ですしね。」
「担当者に会って事情を話そうか。」
「そうしていただけますか。」
「もちろん。」
翌日、高崎にある鉄道管理局へ出かけた。Ｆ君とカメラのチーフが一緒だった。
無賃貨車に人が乗るのは危険なので、規則でダメなのだという。それはそうだろう。
と、実直そうな担当職員が小声でたづねた。
「その万博のカメラというのは貴重品なんでしょうねえ。」
「はい、まあ、世界でこれ一台ですから。」私が答えた。Ｆ君が大声で叫んだ。
「いや、貴重品どころかとてつもない代物なんです。何しろ買っても買えない、売っても売れないというくらいのカメラです。」
「貴重品には、見張添乗というのがありましてね・・。」国鉄マンがポツリといった。
「はあ、あの、見張りはぜひ必要です。絶対に必要なんです。」Ｆ君が喰いさがった。
「何人くらいいりますか。」
「そうですね、ええと、４人　ぐらい・・・。」
カメラのチーフがＦ君をにらみつけた。
「・・・いや、８人くらい・・・」
今度は机の下で、すねを蹴とばした。
「いてて・・・、はい１１人です。」
「ずいぶん大勢ですね。まあ必要があればやむをえんでしょう。」
私たちは顔を見合わせてニヤリとした。

予定した撮影日は見事な晴天になった。
カメラカーを乗せた貨車は蒸気機関車Ｃ－１２のすぐうしろに連結された。
機関士さんたちが、真新しい制服を着こんで、カメラをのぞきにやってきた。
「万博の映画ですってね。私たちも映ると思って、今日はメカしてきたんですよ。」
なあんだ、我々が貴重品の見張りではないってことをちゃんと知ってるんだ。
「鉄橋とトンネルの前では、汽笛を長めに鳴らします。蒸気も派手に出すようにしますから。」これはありがたい。
１１人目で乗り込めることになったＦ君がガーゼのマスクを全員に渡している。
「トンネルの中も、これで大丈夫です。」

朝６時５０分。
鋭い汽笛とともに列車は動き出した。
白い蒸気の雲が、両側を流れ、快調にスピードがあがってゆく。むき出しの貨車の上だけに、風が寒い。肩をすぼめながら、カメラマンも録音エンジニアも顔を上気させている。子供にもどったように、わくわくする気持をおさえきれないのだ。ＳＬには気持をわきたたせるダイナミックな魔力がある。
平野から谷間に入る。
機関士さんたちが、言葉どうり張りきって石炭を焚く。ダイナミックなドラフト音。吐きだされた黒煙が頭上を飛び過ぎてゆく。

汽笛。最初の鉄橋だ。カメラが回りだす。緑に塗られた高い鉄橋を、轟音とともに渡る。
また汽笛。今度はトンネル。秋の日ざしが一瞬に消え、闇に突入する。
何も見えない。ものすごい音。石炭の熱い煙が全身に襲いかかる。
熱湯がしぶきになって飛んでくる。石炭の燃えがらが、灼熱のつぶてになって頬を直撃する。髪の毛の間にもぐりこむ。熱く痛い。強烈な臭いと熱気で息ができない。ガーゼのマスクなんか何の役にもたたないじゃないか、と叫ぼうとしても、うめき声しか出ない。
突然明るさが戻る。大きく息をひとつ。
「ボオー」と汽笛。
「トンネルだあ。助けてくれー。」Ｆ君の絶叫が闇にかき消される。
この線のトンネルは大小七つ。それで大小、七回の地獄に遭遇した。こんな中でも、カメラスタッフは落ち着いて、これまでにない貴重なシーンを撮影し、録音班は迫力満点のＳＬ音を記録した。

もっとも、音のところどころに、「わあ あ」とか「もう、おろしてくれえ」というような使えない部分も混じっていたけれど。

もうひとつの収穫は、福井康雄　さんが演出担当のアストロラマ・シングルカメラ班が、途中の土手の上に陣どっていて、爆進してくるＳＬを正面から撮影し、ドームをおしつぶすような画面にしてくれたこと。

上映中、あのシーンで子供が泣きだすことがあった。

終点でまた汽笛を鳴らして止まると、機関士さんたちが見にきてくれた。

われわれを指さしていきなり笑いだした。

「あっはっはっ、何ですかその格好は。」

私たちはお互いに顔を見合わせた。

「おい、まっ黒だぜ。」

「ひどい顔だよ、まるでパンダだ。」

「わっはっは。」

「あっはっは。」

「とても人様には、見せられない。」

「二枚目がだいなしだ。」

「あっはっは。」「わっはっは。」

笑って涙が出た。涙を拭くとまた黒くなった。幸せだった。

楽しいシーンを撮影できた満足感が、皆の胸にひろがっていた。

私はＦ君の肩をどんと叩いた。

「この弱虫め。とんでもない所を探してくれるから、ひどい目に会ったじゃないか。」

Ｆ君はケロリとして云った。

「そんな煤けた顔して、怒らんでください。ここを見つけた甲斐がありました。面白かったです。」

「うん、ほんとうに面白かった。」私も心から云った。

笑い声がはじけて、まぶしい青空に吸われていった。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

秋山さん、いつも涙あり、笑いありのアストロラマサイドストーリーを、有り難うございます。

毎回、読む度に、あの巨大なドームの中にいるような気分になり、目をとじれば画面がうかんできます。

みどり館の皆様は、いかがですか？

会計報告

	摘要	収入	支出	残高
９０．８．５	繰り越し			９４，５６６
〃	コピー代		４，７２５	８８，８４１
〃	切手代		７，３４４	８１，４９７
８．２２	切手のカンパ	３２７円分		
〃	切手のカンパ	１，０００円分		
９．２２	カンパ	１，０００		８２，４９７
〃	カンパ	１，０００		８３，４９７
９．２５	コピー代（６５号）		３，３００	８０，１９７
〃	切手代		６，４３６	７８，７６１
１１．１	切手のカンパ	９３０円分		

文化の日・・万葉の秋コンサート

１１月３日、邦楽グループ彩主催のミニコンサートを長弓寺でやりました。今回は、ＭＯＡ山月の皆様による生け花や、恩地詳子さんによるお点前など、琴、尺八をバックに目でも楽しんでいただけました。

そして、何よりも嬉しかったのは、先号で初めてアストロラマにチラッと登場した、青木千里さんが司会を引き受けてやって下さったこと。千里さんとは、バルサムからのお土産を渡すためにＴｅｌしてお会いしたところ、初対面にもかかわらず、もう１０年来の友達みたい。美保さん、バルサムの共通のお友達っていうだけで、本当に遠慮のないお付き合いです。

コンサートには、いろんな国のお友達をいっぱい連れて来て下さり、日本語、英語両方で曲の紹介もして下さった次第です。お友達の中には、コンサートも良かったけれど、千里さんのおしゃべりが良かったなんて声もありました。

また、村田弘子さん、高橋孝子さんも、お忙しい中、来て下さって嬉しかったです。

皆様、有り難うございました。

では、次号をお楽しみに！

アストロラマ　No．67

発行者　桑原由紀子　生駒市上町９－１２　☎０７４３７－８－１９６９

１９９１．１．２０

明けましておめでとうございます。といっても明けてから随分たつのですが・・・。

皆様からたくさんの賀状をいただきまして、有り難うございました。子供の成長と義母の老化で年を感じるこの頃です。

私はこのところ、義母のアッシー君・・・というのは、１２月のはじめ、飼い犬に指を噛まれた義母は毎日病院通い。大晦日も三が日も関係なし。こう毎日のこととなると、人の好い（？？）私も、時には虫のいどころが悪かったり、また忙しい身（？）なもので、そうそう付き合っていられなかったりするわけです。そんな時は本物のアッシー君（タクシー）を使ってもらうのですが、それが、とんでもないところへ行ったり、見ず知らずの方にお世話になったり、パトカーのお世話になったりと、てんやわんやの日々を過ごしております。

そんなこんなで、あまり心境の良くないところに、３泊４日で沙代子が帰ってきました。やっぱり親の状態が悪いと即、子供に影響するものですね。家にいる間はベタベタくっついて離れようとしないのです。そして、六川に帰る日には、もう帰りたくないって泣くんです。そんな沙代子を見て、子供に逃げ場を求めた私が、こんなに子供を引っ張っているのかな・・・と思えて、情けなくなりました。

そんな自分の状態が見えた今、残り２か月の幼年部生活を沙代子に思いっきり楽しんでもらおうと、私自身楽しく過ごそうと思います。親子ってほんとうに不思議なものですね。離れていても、気持ちを放していないと、遠隔操作するみたいに、親の気持ちが移るみたいです。今回はいろんなことを考えさせられた、３泊４日の家庭研さんでした。

切り換えの早い子供のこと、六川ではまた、楽しいだけの毎日を過ごしているようです。

神戸で　ニュー　イヤー　コンサート

昨年から楽しみに準備してきた、いけばなインターナショナル神戸での、ニューイヤー　コンサートも、１１日に無事終わりました。

当日は、末松具子さん、宮元美智子さん、大窪福子さんが、お忙しい中、神戸まで足を運んで下さり、有り難うございました。

Ｉ．Ｉ神戸の皆様の暖かい気持にささえられ、ユーモアに富んだナレーションに盛りあげていただき、彩（あや）のメンバー一同、気持良く、楽しく演奏することができて、すばらしい一日となりました。

生け花を通じて、音楽を通じて、目指すところは同じだなって思いました。

こんなすばらしい出会いを作って下さった阪上栄子さんに改めて感謝しています。

栄子さん、どうも有り難うございました。

“出会い”といえば、その昔　コンパニオン教育の時、千登美子氏に教えていただいた“一期一会”という言葉を思い出します。それ以来、私の大好きな言葉となり、実践も心がけています。そして尊敬する美保さんも、とても出会いを大切にされる方だなと思うのですが、今年５月に日本に招待されているチェコスロバキアの青年、ポーベル君との出会いはこんなふうでした・・・

美保さんの手記から

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

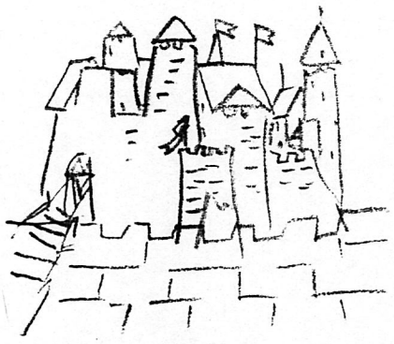
私はポーベルと、お城への狭い坂道を登っていた。気ばかりあせっても人がいっぱいで、なかなか前へ進めない。その日は７月５日。チェコスロバキアでは６月８日の選挙で圧勝したフォーラム党によってハベルが大統領に推され、正式に就任した日であった。３時からお城で最初の演説があるという。

その日の昼過ぎにワルシャワからプラハに着いた私は、都心まで出てから、ホテルへ行くのにどの地下鉄に乗ればいいのかと、道端にバックパックをおろして地図を見ていた。

「メイ　アイ　ヘルプ　ユ　？」

そのとき声をかけてくれたのがポーベル青年だった。数日まえに大学の受験を終えたばかりだという彼は、地下鉄と市電を乗り継いで私をホテルまで連れて行ってくれた。

そして今から、自分はお城へ行くが、よかったら一緒に来ないかと言う。願ってもないことである。私は慌てて荷物を部屋に置くと彼の待つロビーに降りていった。お城への地下鉄は人でいっぱい。



汗をかきながら、やっと城門にたどりつくと城内は満員でもう門が閉じられていた。３時を１５分過ぎている。１時間余り待った。どんどん人が増えて身動きも出来なくなってくる。やがてハベルの話が終わって人びとが城内から出始めたのか、やっと人の流れが小刻みに動き始め、とうとう城内に入った。

人びとは、広い宮殿の二階中央にあるバルコニーに向かって立っていた。バルコニーの手すりには、二人の天使がランプを支えている像が四か所についている。

黒い手すりにからまった美しい曲線の金色の飾りが、王宮らしい豪華な雰囲気を出していた。

城内の広場の人は入れ代わったが、しばらくするとまた人でいっぱいになった。周りから押されて息をするのも苦しい。背後の天を突くようなゴシックの塔をもつ大教会のそばの高みで楽団がつぎつぎといろんな曲を演奏していた。チェコの音楽やスロバキアの民謡などを。音楽が止むと、ときどき、わあーっという声と共に拍手が起こり、「ハベル、顔を見せて！」という大合唱がわき上がる。私達はバルコニーに近いかなりよい位置に陣取り、ずっと上を見上げていたので、首がだるくなってきた。そのとき、白っぽいベージュの背広に、長髪を肩までのばしたスポークスマンがバルコニーに現れた。

ハベルは昼食後、ダンスをしすぎて疲れたので、今日はもう現れない、という。代わりに労働大臣、外務大臣そして女性の通産大臣が談笑しながら出てきた。にこやかなスポークスマンとの一問一答が始まる。大臣がなにか言う度に大きな笑いがどっと沸き起こる。ジョークばかりがとびかいお城の広場中が明るい笑いに包まれた。まるでお祭りだった。

「共産党の時代はしかめつらしい演説ばかりだったのにー」と帰り道、ポーベルがつぶやいた。

毎年フランクフルトで行われるブック　メッセでハベルは昨年（１９８９）受賞した。これは全世界から出版物を持ち寄り、その中から一人が選ばれて賞をもらい、記念講演をするもの。彼は獄中や地下で書いた妻への手紙や、レジスタンスの回想記で賞をうけた。

でも去年はまだ国を出ることが許されなかったので、受賞式に参加できず、講演の代わりにカセット　テープを送った、ということである。

今年から市民も外国へ行けるようになった。ポーベルも友人と二人で来週からフランクフルトへ二週間いく、と胸を膨らませている。私は来年４月、彼を日本に招待した。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

ポーベル君の日本旅行が実現できて、アストロラマネットワークによって、滞在中、何らかのお手伝いができれば嬉しいなと思っています。

美保さん、いつも有り難うございます。

お知らせ

西尾晶子（近藤）さんの住所が変わりました。

新住所・・・〒２７０－１１
千葉県我孫子市東我孫子２－２６－２－３０５
（日本板哨子天王台社宅）
☎　０４７１－８３－６８８５

会計報告

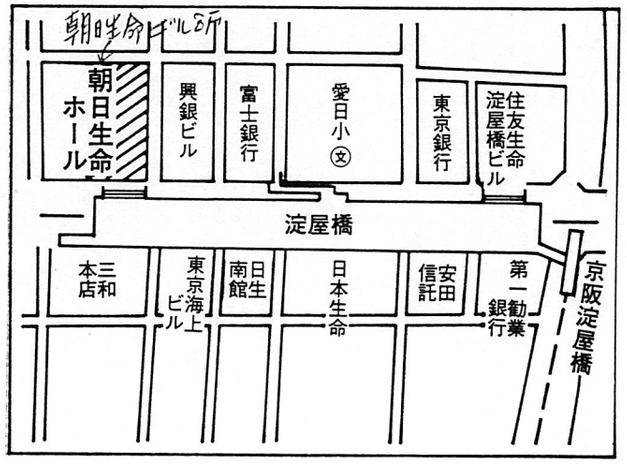
	摘要	収入	支出	残高
２．１１．１０	繰り越し			７３，７６１
〃	コピー代		４，９５０	６８，８１１
〃	切手代		６，３２４	６２，４８７
	タックシールのカンパ（３回分）			
	切手のカンパ　　１，３０２円分			

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

コンサートへのお誘い

桑原仙山、中村等山、岡田拓山による尺八三本の会“あうん”のコンサートを今年も３月２日（土）朝日生命ホールにてやります。

私の手術と重なった記念すべき第１回から数えて早くも４回目となりました。春３月、土曜の午後のひとときに、邦楽を聴きにいらっしゃいませんか？

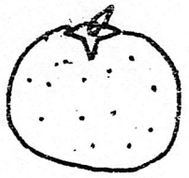


12月号 六川幼年部だより No.7

1990.12.

ヤマギシズム学園六川幼年部

朝.夕のひえこみが厳しくなって、ストーブが恋しい季節しくなりました。
でも幼年部の子供達は、そんな寒さとも仲良し、元気しっぱいでとびまわっています。



今月、12月は六川は一年の中で一番の農繁期。
みかんの収穫がはじまって、村はとても活気づいています。
幼年部の子供達も、村のお父さん達に、みかん畑を用意してもらって、みかん収穫をやらせてもらってます。お父さんに本格的に片手どりを伝えてもらってみんなやる気満々です。
みかんをみつめる目、はさみをもつ手は真剣そのもの。
みかんのこと、食べる人のことを想って、ひとつひとつ大切に収穫しています。

ぼくたち、へっちゃら探険隊！

11月下旬から、男の子だけで、へっちゃら探険隊をチームをくんでやりはじめました。道なき道をひたすらのぼっていったり、お母さんさえも知らない山の奥まで行ったり、どんなことがおこってもへっちゃらでやっていける男の子目指して、きたえてます。

《エピソード》

秋葉山に登った時のこと。"元気いっぱいへっちゃらザ"チームの子供達8人は、はじめのうち元気に登っていました。遠足で一度きた場所まで行って、しばらく遊んでいると、突然、一緒にいたはずの裕美お母さんがいなくなってしまいました。こんな時どうするかな？と様子をうかがっていた裕美お母さん、まてどくらせど反応がない。"おかしいな？"と思って出ていくと、8人のうち4人がいない。
あとの4人に"どうしたの？"と聞くと"A君が一度きた道を戻って、お母さんをさがそうと言ってみんなおりてった。僕達も今、行こうとしていたの"と言います。4人のあとをおって山をおりて行くと、この4人、自分達だけで山の上から、コスモスの家まで、帰ってきていたのです。お母さんの顔をみたとたん、ホッとしたのか、泣きだしてしまったけれど、みんなで考えて、こんなとこまできたんだなと思うと、とてもたくましく感じました。

プレゼント いっぱい!!

11月から12月にかけて、幼年さんはプレゼントをたくさんしてもらいました。「え～！またプレゼントしてくれるの～!!」と、うれしい悲鳴をあげて子供達が大喜びしたプレゼントとは。。。

みがき隊開始！

今まで学育のお姉ちゃんや、お母さんがやってくれていた愛和館、学寮室のみがきを、幼年さんがやらせてもらうことになりました。
テーマも男の子は"僕たちで力強く磨きます"
女の子は"わたしたちでやさしく磨きますと、
みがきをやりながら、
男のまらしさ、女のまらしさも
磨いてます。
お風呂できたえた(?)
雑巾しぼりもなかなか
さまになってます。

じゅず玉のネックレス

12月3日と6日、女の子は、村のお父さんがとってきてくれたじゅず玉でネックレスを作りました。生まれてはじめてもつ針に少し緊張ぎみ。美保子お母さんにやり方を伝えてもらって、その通りにやってみました。

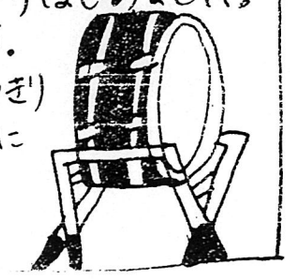
じゅず玉を大事そうにひとつ、ひとつつなぎでいく姿は、
"う～ん女の子だなぁ"。
ネックレスもとってもステキなのができあがりました。

自転車遊び

まちにまった自転車遊び。
まず使い方の研鑽をして、自転車とも、みんなとも、仲良しでやっていくというところでスタート！
のれる子がのれない子の後ろをささえてあげていっしょに練習している姿はなんともほほえましい光景です。
みんな思いっきり遊んでいます。
2、3回のっただけで
小、のれるように
なった子もでて
きました。

器楽

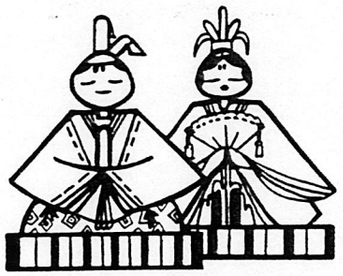
12月10日から器楽がはじまりました。
テーマは"心をひとつにあわせます。
きれいな音楽をつくります"
練習テーマ"よく聞いて、はいってやります。"
と、秋にやった鼓笛よりも、楽器も、中味も一歩すすんだところでやりはじめました。
みんなとてもやる気です。
パートも一人一人が思いきり
やって、のびていけるように
描いて決めました。
仕上がりがとても楽しみです。



アストロラマ　No．68

発行者　桑原由紀子　生駒市上町９－１２　☎０７４３７－８－１９６９

１９９１．２．２５



皆様　こんにちわ。寒い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか？

湾岸戦争の事を考えると悲しくなりますが、やはりここは平和な日本、テレビニュースを見てもつい、テレビゲームか映画のワンシーンを見ている錯覚を覚える私です。とにかく一日も早く終わって欲しいですね。

一方、　２月も半ばを過ぎ、子供の帰って来る日を指折り数えて待っている私でもあります。この一年、沙代子の五歳時の記憶は、一生私の中から消えないほどの印象として残ることと思います。こうしてアストロラマに書くことや、皆様からの暖かい声かけにささえられて過ごせたことに感謝しています。これからが大変とおもいますが、親子共に育っていきたいです。と、まあ過ぎた日を振りかえったり、少し先を描いたりしている今日この頃、嬉しいことがあり、また書きたくなったので、６８号をお届けします。

邦楽グループ彩（あや）
ＮＨＫ邦楽オーディション合格

１月２６日、毎年一回行われるＮＨＫ邦楽オーディションに「グループ彩」で挑戦したところ、これが見事合格、メンバー一同浮かれまくっている内に、一月も終わりました。

このオーディションはアマチュアなら誰でも受けられるのですが、合格はむづかしいと聞いていたので、私達も力だめしのつもりで、今回は初めてだし、見学がてら受けてみようと思ったわけです。

曲は長沢勝俊の「秋によせる三つの幻想曲」、第一琴　小山利恵子、第二琴　谷垣千鶴、十七絃　桑原由紀子、尺八　小山政夫の構成です。

毎週２回の合奏練習、家族ぐるみのお付き合いを通してチームワークだけはピカーと自信があったのですが、その息の合ったアンサンブルを認めてもらえて、こんなに嬉しいことはありません。

ますます燃えている「グループ彩」です。

そんな燃えてるところへ、また神戸でのコンサートのチャンスが巡ってきました。

３月２４日（日）、神戸市北野町の北野天満宮の梅まつりで、等曲を奉納させていただくことになりました。午後１時頃から境内でやっておりますので、近くの方是非いらして下さい。・・・・とこの原稿を書いているところへ地元、奈良日々新聞社の記者からＴＥＬがあり、取材の申し込み。なんと「グループ彩」のこのニュースを新聞に載せていただくことになりました。

コピーを載せましたので、合わせて読んでみてください。さすが、プロ、文章作りがうまいなぁと思います。

実は、私達「グループ彩」が新聞に載る２週間位前に、夫の桑原仙山の記事も載せていただき、ひと月の内に二度も写真入りで、地方紙とはいえ新聞に載るなんてことは、我が家にとっちゃ大ニュースってことになるわけです。

そして、書きたがり屋の私としては、これを書かないで何を書く？ってことになり、だんだんこのアストロラマは、私の生活の記録になりつつあるな・・・と思っています。

私としては、みんなのアストロラマにしていきたいと思っておりますので、皆様も思いつくまま、書いてみませんか？

提案

３月３１日（日）
「美保さんと歩こう会」を予定しています。

歩いて、喋って、笑って、食べて・・・楽しい春の一日をつくりませんか？

暇な人、退屈な人、・・・行きたい人なら誰でもＯＫ。友達誘ってまたまた仲間を増やしませんか？

場所やコースはこれから一緒に考えましょう！

〈こんにちは〉

こんにちは

いこまの顔

自分に勝つには修業あるのみ

生駒市芸能協会理事
都山流尺八楽界大師範
桑原　仙山さん 40歳
（本名・桑原茂さん）＝上町＝

夫人の由起子さんの爪（つま）弾くお琴と合奏し、お互いの腕を磨いているという桑原さんは、十八歳の時に父について都山流の尺八を習い始めたのがきっかけ。永広真山師に師事したが、二十歳になって星田壱山師に付き、本格的に尺八を習うことになった。

都山流は資格を取るのも初伝から皆伝までは大師範から免状が贈られるが、準師範から師範、大師範になるには難しい試験という関門をくぐり抜け、合格しなければ資格が与えられないという厳しい掟（おきて）がある。

桑原さんは三十歳前後で師範の資格を取り、「仙」という都山流の号を付けることが許され〝仙山〟を名乗った。さらに大師範に合格するというスピードで出世で、現在は小学生から七十歳のおじいちゃんまで、六人の門下生の指導に当たっている。

桑原さんは生駒市芸能協会理事として六月の邦楽、邦舞名流会と秋の市文化祭に協力。また、生駒の芸能発展に尽くすばかりでなく、年一回、桑原さんと同じ尺八奏者である中村箏山さん、岡田沖山さんで結成した尺八三本の会「あう会」を開き、日ごろの成果を披露している。

桑原さんは尺八の奏者と方面などで〝尺八とお琴の「発表会」を年一回開く。今年も三月二日、大阪の朝日生命ホールで予定している。さらに、桑原さん夫婦と同じ趣味を持つ二組の夫婦でグループ〝彩（あや）〟を結成。上町の真言律宗真弓山・長弓寺や北新町の中央公民館、遠くは吉野山などで〝尺八とお琴の「発表会」を開き、日ごろの成果を披露している。

桑原さんは尺八の奏者というだけでなく、高校を出ると、尺八製作者として身を立てようと、その筋の第一人者である大阪・豊中の玉井竹仙さんに弟子入りした。尺八は、一本一本が手作りで、歌口の削り方、穴の開け方一つで微妙に音色が変わるという。

現在は独立し、大阪・天王寺で仙山銘尺八製作に携わる。尺八はお琴や三味線と並び貴重な和楽器だけに、尺八奏者から喜んでもらえる優れたものを作ろうと、日夜努力している毎日。

「尺八都山流の大師範といってもまだまだ未熟で、これからが大変だと思っています。自分に打ち勝つには修業あるのみと思っています。芸能協会の理事とはいえ、先輩の方々に教えてもらうことが多く、よい試練の場を与えられたと思い、より一層芸道に力を入れるとともに、尺八製作に当たっては奏者の立場にある者として、より以上に優れたものを作り、送り出したいと思っています」と話している。

生駒ミニフォーク

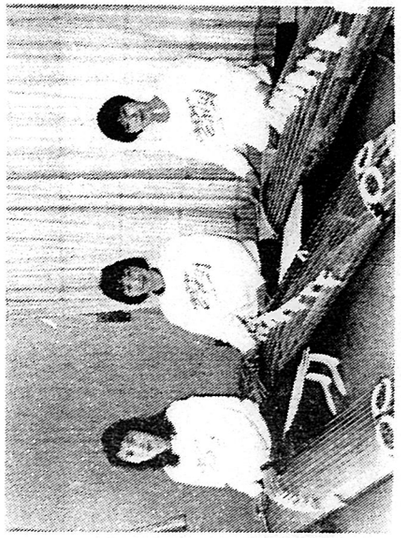
生駒支局
生駒市元町1－6－
生駒セイセイビル5
☎0743(75)3199
FAX0743(75)3176

邦楽グループ「彩」の海外公演へ

21日午前11時15分FM「邦楽ジョッキー」

尺八・琴合格目前

NHK邦楽オーディション



お琴の練習に励む（左から）谷垣さん、小山さん、桑原さん

生駒市と北葛城郡に住む三組の夫婦が、お琴と尺八を通じて結成した〝邦楽グループ「彩」（あや）〟が、このほど行われたNHK邦楽オーディションに初挑戦、見事に合格を果たし、二十一日午前十一時十五分からのNHK・FM放送「邦楽ジョッキー」で全国に紹介される。〝彩〟のメンバーは生駒市上町、桑原茂（生駒市芸能協会理事、都山流尺八大師範）、由起子さん夫妻と北葛城郡香芝町旭台二丁目、小山政夫、利恵子さん、同郡王寺町明神三丁目、谷垣泰弘、千鶴さんの三組の夫婦。今回のオーディションはアマチュアということもあって、プロ級の桑原さんとマネジャー格の谷垣泰弘さんを除く、三夫人のお琴と二人の小山政夫さんが参加。応募した三十五組のなかから選ばれた。

桑原由起子さん（生駒市芸能協会理事夫人）ら出演

このグループの結成の動機は昭和六十三年、香芝町に越して来た小山利恵子さんが友人のない寂しさから、本紙発行の「奈良ライフ」にいっしょにお琴を勉強しませんか、と投稿したのに応じたのが桑原由起子さん。当初は数人の仲間がいたが、その後二人去り、二人去りして小山さんと桑原さんだけとなり、二人だけで伝統芸能を育てようと「お琴の二人会」を作り、一昨年三月香芝町の旭台集会場で発表会を開き好評だった。

この発表会を聞きに来ていた谷垣千鶴さんが、同じ趣味を持つものとして二人の熱意に感動、仲間に入ることになり、昨年二月桑原、小山、谷垣の三家族で〝邦楽グループ「彩」〟を発足させた。

けい古場は名家庭を持ち回りで行い、二月は「きさらぎコンサート」、四月は「うげつコンサート」と題して二カ月に一回、地元の集会場やお寺で三コンサートを開いているほか、昨年の花園では改修と咲くやこの花館でコンサートを開いたが、その都度、マネジャー格の谷垣さんが次回の発表会に備え、聴衆の反応や演奏の様子をビデオに撮りして研究の材料作りに活躍しているという。

これからも奈良町会館や生駒セイセイビルのホールで〝発表会や茶道、華道各流派とも交流してお寺前の席や華道展で『コンサート』を開けるコンサートにしたらと思っています」と話している。

桑原さん、小山さん、谷垣さんは「〝彩〟の名はお琴に使われている木目模様の〝あや〟から取ってつけました。コンサートの出は『春の海』や『荒城の月』、『さくらさくら』など季節場所に応じて決めますが、『懐かしられた遊び』や『愛のオルゴール』なども演奏し喜ばれています。

この三月には神戸の天満宮で開かれる梅まつりのコンサートに出演が決まっているほか、これからはピアノやフルートとの合奏も考えています。人の心の彩りを鮮やかに印象づけるコンサートにしたらと思っています」と話している。

世論時報 1991年2月号

連載シリーズ

美保子の❶

地球にやさしく

杉原美保子

ビニール袋はいりません

あれは一九七八年のことでした。ドイツで音楽の勉強をしたあとオーストリアのインスブルックで五日間を過ごしました。駅の案内所で「読み書きをしたいので、景色が良くて明るいホテルを」と頼んだところ、国立インスブルック大学の学生ハウスを紹介してくれました。夏の間、九階建の学生寮はペンキを塗り変えてホテルになるのです。

私は先ずスーパーマーケットの場所を聞いて、食べ物を買いに出かけました。オレンジジュースの大ビンやトマト、桃、りんご、パンやハムを買い込んだのですが、ここではビニール袋はくれないのです。客はみんな自分の買い物袋に、買った物を入れて持ち帰っていました。ビニール袋がほしければお金を払うのです。スイスも同様でした。

そのときから私は、資源のない日本でのビニール袋の大判振る舞いに疑問を持ち始めたのです。私は、どんな良いことでも実行しなければ、知らないのと同じだと思いました。それで、日本に帰ってから買い物のときは古いビニール袋を持参し始めたのです。たかだかこんな小さなことですが、それでも勇気がいりました。レジでけげんな顔をされたことが何度かあります。

当時住んでいた西宮で、新聞が省資源について意見を募集したので、私は早速そのことを書きました。そのためではないでしょうが、日本で一番大きい灘の生協が、やがて画期的なことを始めたのです。買い物のときに、生協のビニール袋を家から持参した人にはカードにハンを押し、それが十個たまると、買い物代金から五十円差し引いてくれるのです。これは十数年を経た現在も続いています。こうして、いち早く人々の意識に問いかけてくれたことを、私はとても高く評価しています。どんなに良いことでも現状を変えにくいのが常ですから。

私はその後、六年間ボストン（米国）に住みましたが、もうそのときは胸を張って、スーパーに古い袋を持参しました。なぜ？という顔付きをするレジの女性には「ビニール袋は作るときも、焼却するときも空気を汚染するでしょう。それに資源節約のためなのよ」と言うと、彼女もニッコリです。

帰国して利用し始めた「千葉コープ」は、袋を五円で買うことはできますが、持参するのが原則。群馬県を中心にチェーン店を多く持つ「カスミ・スーパーマーケット」も積極的な取り組みをしていました。古い袋持参か、段ボール箱で持ち帰る人には、千円について五円のシールを出している、とのことでした。近く牛乳パックとトイレットペーパーの交換も予定しているとか。嬉しいことです。もし一人が一週間に二枚、新しい袋を辞退すれば、一年間に百枚の節約になります。資源を大切にして地球を守るということは、暮らしの中でごく小さなことをコツコツと実行していくことに尽きると思います。これがまた、次の時代を生きる子供達への良い教育にもなるのではないでしょうか。

（フリーランス・ライター）

まだ見ぬチェコの友　ポーベル君

前々号からアストロラマに登場のポーベル君ですが、美保さんからこの話を聞いて、来日の折りには、是非、奈良にも寄って欲しいと思い、手紙を書きました。

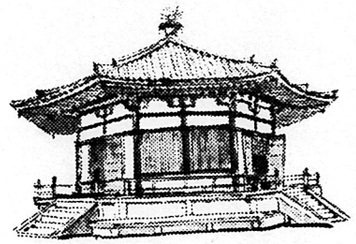
もう何通か行ったり来たりの文通が続いているのですが、彼の手紙によると、チェコスロバキアはインフレで物価がどんどん上がり、去年のうちは、日本への旅行の費用も十分手元にあったのに、今ではとても追っつかないほど高くなり、これでは日本へなんてとても行けないって嘆いています。

日本についてとても興味を持っているのに、残念に思います。そこで提案ですが、ポーベル君に手紙を書いてみませんか？
美保さんのお友達からって手紙がくれば、きっと喜ぶとおもいますょ。

美保さんに手紙を書いたり、ポーベルに手紙を書いたり、・・・アストロラマを通じて何か行動してみませんか？

ポーベルとの文通や、青木千里さんを通じてのいろんな国のお友達との交流は、私にとってこの上ない英語の実践練習になっています。

やる気があれば、何でも勉強になるなって実感しています。



会計報告

	摘要	収入	支出	残高
91．1．20	繰り越し			62，487
〃	コピー代（67号）		2，200	60，287
〃	切手代		2，205	58，082
1，21	カンパ	2，000		60，082

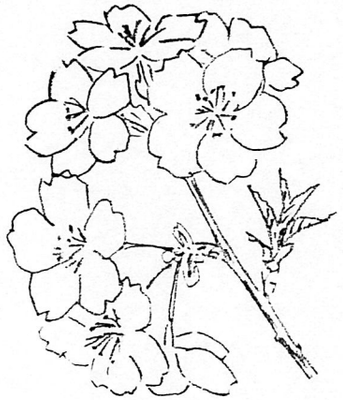
美保さんの「地球にやさしく」はいかがでしたか？
一人の力は小さくても、集まれば大きな力になりますね。私も袋持参でお買物にいきます。

では、次号をお楽しみに！

アストロラマ　Ｎｏ．６９

発行者　桑原由紀子　生駒市上町９－１２　☎０７４３７－８－１９６９

１９９１．４．５



皆様こんにちわ。桜の季節がやってきましたね。
この時期は、暮らしの変化の多い時期、私の家でも六川から沙代子が戻ってきて、新しい生活が始まりました。皆様のお家ではいかがでしょうか？

さて、今回はその幼年部の出発式の模様から・・・

出発式というのは、幼稚園でいう卒園式のこと、ヤマギシでは幼年さん達にとって卒業はなく、常に次に向かって進むだけ。そんなところから出発式と呼ばれます。

３月１６日、全国の幼年さん達の親は、それぞれに子供の行ってる実顕地へ行きます。思いがけない春の雪が降る中を、私達も六川実顕地へ。各地からもう顔なじみになった親達が集まってきました。食事のあと、子供達の器楽合奏と合唱を聞かせていただき、一人一人が心を合わせてきれいな音楽を創っているのに感動しました。

夜はこれから子供達を迎えて、親としてやっていくところを研さん。そして、翌１７日がいよいよ出発式。一年前の入学式の頃に比べてグンとたくましく、かわいらしくなった子供達、村のお父さんから、一人一人に出発証書を手渡され、握手をする子供達をみてまた感動。過ぎてみれば早く感じる一年を思い返して涙がこぼれました。

にこやかな子供の顔をみて、この一年幼年部に放して本当に良かったと思えました。

次ぎに、チェコスロバキアの本を翻訳された中村裕子さん（住友童話館）から、ポーベル君の記事を読んで、早速お便りいただきましたので、紹介します。

このニュースは美保さんにとっても興味深いものではないかと思います。本当にアストロラマを通じてこんな出会いが叶うのも楽しいですね。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

桜の便りもきかれる頃となりましたが、お元気でいらっしゃいますか？いつもアストロラマをお送りいただき有り難うございます。

この度は「彩」のＮＨＫ邦楽オーディション見事合格おめでとうございます。

ちょうど一年前の演奏のことを思いだします。　私達の訳したスロバキア民話『白いお姫さま』の出版を祝う会が千里で催され、１７０人の方が心から祝って下さいました。東京からチェコスロバキア大使館員、在日スロバキアの女性、エバさん、また国際児童文学館の鳥越信総括専門員も出席されましたが、万博コンパニオンの皆様、そして奈良からは、我が桑原由紀子さんが、ご主人様の桑原仙山さんとかけつけて、琴と尺八の息の合った名演奏を聴かせて下さいました。

新聞によると仙山さんは、生駒市芸能協会理事、都山流尺八楽界大師範とか、さすがにすばらしい音色でした。

さて、アストロラマでポーベル君の記事を読みましたが、私も昨年のクリスマスにチェコスロバキア第二の都市ブラスチバにウイーンから汽車で行き、『白いお姫さま』の著者、マリアジュリチェコバさんと画家のツィパールさんに会うことができました。画家はあの１９９０年１１月のベルベット革命の中心人物で、ちょうど私が着いた日に、革命発祥の地で中心人物たちのセレモニーがあり、私も招待されました。

また、お宅に招んで下さり、「あなたの今座っているところで革命の相談をしたのですよ」といわれ、急に革命が身近に感じられました。

革命前の１９８９年６月に行った時と比べ、変わったことは、人々の表情がとても明るくのびのびとしていることです。

今、児童文学館に客員研究者として半年滞在されているスラビイさんは、プラハの「金の五月」の編集長でしたが、「プラハの春」がソ連の戦車でふみにじられてから、やめさせられ、革命後また返り咲いた方です。しばらく滞在されますので、ポーベル君にも会えるといいですね。

自由に物を書いたり、自由に旅行できる、この自由は何物にも換えがたいと思います。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

裕子さん、どうも有り難うございました。

さて、ここでコンサートの報告を二つ。まづは、神戸北野天満宮でのミニコン、すばらしい晴天に恵まれた３月２４日、異人館の建ち並ぶ北野町は若い人達でいっぱい。その人ごみの狭い道を通り抜けて高台に登ったところが北野天満宮、目の前にテレビで見たことのある風見鶏のついた建物があり、ずっと下に港が見えるすてきなところでした。その境内の中央の建物（舞台）で私達は演奏しました。観客は四方どこからでも私達が見えます。

さすが神戸、半数位は外国のお客様でした。舞台に座ってふと正面の階段を見ると、青木千里さんとそのお友達３人がにこにこと手を振ってくれて感激！

１時間半の演奏も無事終わり、お世話してくださった、生け花インターナショナル神戸の前田美智子さんにもとても喜んでいただき、気分よく神戸を後にすることができました。

この日もう一つの良かったことは、沙代子が同じ六川帰りの神戸のお友達と一日一緒に過ごせたことでした。

その一週間後の３０日、香芝町の集会所でのミニコンサート。「彩」のメンバー全員をよく知っている平真知子さんに司会をお願いし、アートフラワーの作品発表を兼ねて、会場を春の花で飾り、小じんまりしたすてきなミニコンでした。

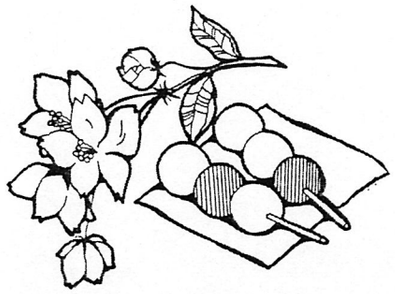
若かりし頃（？）演劇をやっていた真知子さんには、その特技を活かして「花さき山」の語りもやっていただき、琴、尺八、１７絃の音楽にのせて、一ついいことをすれば一つ花が咲く・・・という花さき山のお話しに皆んなシーンと聴き入っていました。ここにも青木千里さんのお友達、吉松さんが聴きに来て下さって感激でした。

「美保さんと歩こう会」の報告

３月３１日、花曇りのこの日集まったのは、美保さん、硬さん、アストロラマ仲間の神谷省次さん、末松具子さん、宮川季子さん、青木千里さん、ヤマギシ仲間の平善行さん、真知子さん夫妻、阿曾伸一さん、都さんまりお君（４才）たいと君（２才）、お琴仲間の小山政夫さん、利恵子さん、ひろゆき君（小１）と私と沙代子（６才）の総勢１７人。

暑くもなく、寒くもなく、歩くにはちょうどいいかげんだったけれども、桜満開とはいかなくてちょっと残念。コースはその昔、大阪、奈良間を行き来する人でにぎわったという暗峠（くらがりとうげ）を通って生駒山を歩いて越えるコースです。

南生駒から暗峠まで予定通り１時間位で登り、それからさらに２～３０分歩いて府民の森ぼくらの広場へ。ここまで来るとさすがにおなかもペコペコ。



生駒山の頂上をはさんで右に奈良、左に大阪を見渡せるぼくらの広場には、万葉植物園もあり、その中程にテーブルとイスが。天候が怪しかったせいか、人出も少なくて、早速そのテーブルの上に皆んなのお弁当を広げて、持ち寄りパーティー風にして、楽しいランチタイム。

ここでは美保さんがリュックにつめてきた本が、飛ぶように（？）売れて大喜び。初対面の人が多かったけれど、皆んな美保さんのさわやかなお話しと笑顔に魅せられるみたいですね。

ランチタイムのあとは、大阪側への下り道。林の中の急な下り道を降りること４０分余りで、近鉄枚岡駅に降りてきました。これだけで約４時間ほどのコース。時間も早いし、まだおしゃべりしたいなといって、二次会、三次会へ、急ぐひとは途中で一人、二人と抜けて、結局最後まで残ったのは、美保さん、硬さん、神谷さん、青木さんと私。やっとビールにありつけた神谷さんの幸せそうな顔。今回はいろんな分野の人達の集まりで、一つのことでもいろんな角度から見た話しに面白さがありました。

懐かしい人との再会を楽しみ、新しい人との出あいを楽しみ、歩くことを楽しみ、食べることを楽しみ、景色を楽しみ、会話を楽しみ、本当にいろんなことを楽しめた一日でした。次回は５月頃を予定しています。

おわり

お知らせ

４月２１日（日）“フォーラム地球にやさしく”

今、世論時報に連載されている“美保子の地球にやさしく”の美保さんが、みんなで知恵を出しあって社会をよくしていこうと、上記のフォーラムを開かれます。場所は東京駅の近くだそうです。

東京地区の方、詳しい場所は美保さん（０４７４－６１－１３７３）にお聞きして出かけてみませんか？

“美保子の地球にやさしく”は美保さんの了解を得て、アストロラマでも紹介させていただいてます。どんな問題でもそれを知らせること、知ることから、それについて考えることがはじまると思います。

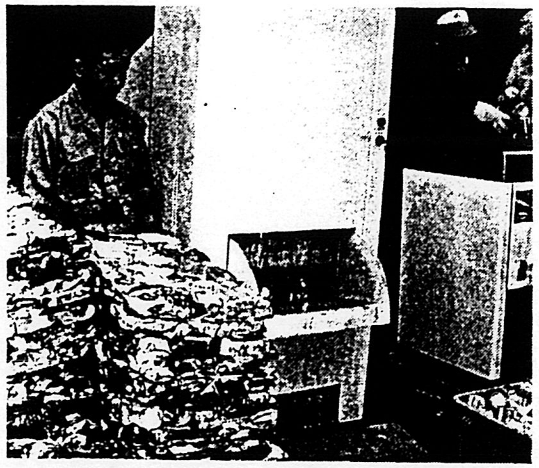
世論時報3月号に。

環境シリーズ

美保子の❷

地球にやさしく

杉原美保子



缶ジュースの空き缶はどうしますか？

昨年の夏、フィンランドの首都ヘルシンキに五日間滞在しました。街はとても清潔です。バスの乗り口に絵の表示が出ていて、たばこ、飲み物、ハンバーガー、アイスクリームを持っての乗車は禁止でした。

ジュースやビールの空き缶も全く見当たらないので、「なぜですか」と聞いてみました。ジュースの空き瓶は、店に返すと瓶代金を返してくれ、瓶は再利用に回されます。缶は資源の無駄遣いだからということで、政府の方針で値段がうんと高いとのこと。知り合った中年の女性は、「瓶ジュースがあるのに、なにもわざわざ高いお金を払って缶ジュースを買う人なんて誰もいませんよ」と話していました。

缶ビールも同様です。実際、私が缶の飲み物を飲んでいる人を見たのは一度だけでした。その時以来、私は資源のない日本で、缶ジュースの自動販売機が世界に類をみないほどたくさん並び、また瓶の回収もあまり行なわれない現状に疑問を持ち始めました。

私は夫の仕事の都合で、一九八二年の夏から六年間ボストン（米国）に住みました。そこでは毎年十一月に選挙があって、ついでに住民投票も行なわれます。その年は、中間選挙と共に次の五つの問題について投票がありました。

一、核兵器の凍結。
二、キリスト教系私学への補助。
三、死刑の廃止。
四、空き瓶、空き缶の回収。
五、原子力施設の制限。

結果は、私学の補助と死刑の廃止は「ノー」と出て、その他は「イエス」になりました。瓶代と缶代を上のせした分だけ飲み物の代金が値上げされて、その回収は年があけると早速実施されたのです。

帰国して住んだ船橋市（千葉県）は、空き缶と瓶はリサイクルのため、ゴミとは別に回収しており、ホッとしたものです。市役所に尋ねますと、回収するように取り組んでから、はや十五、六年になるとか。

瓶の種類は四千七百種もあり、酒瓶など百八十種類の瓶は、再利用のためメーカーが引き取るそうですが、さらにそれを選り分け、残りを四種に色分けして再生産に廻すという大仕事がなされているのです。缶のほうは磁石で、アルミと鉄に仕分けされ、再利用に廻されます。

この取り組みで、飽和状態になっているゴミが少しでも減ることになり、資源が活かされるので、船橋市では熱意をもって行なわれていると聞きました。

今年の正月、ハイキングに行った秩父の長瀞町（埼玉県）では、五、六年前に町費で一台四十五万円する空き缶回収機を二十数台据え付けたことを知りました。長瀞町で買った缶ジュースにはシールが貼られていました。この空き缶を回収機に入れると、町費から五円もらえるようになっています。

メーカーの売りっ放し、国の対応の遅れ、考えることを忘れていた私達の〝つけ〟を、地方自治体が独りで背負っています。そのために税金を出しているのだから……と言うのは、税の無駄遣いにつながります。

（フリーランス・ライター）

会計報告

	摘要	収入	支出	残高
91．2．25	繰り越し			60，082
〃	コピー代（68号）		3，300	56，782
〃	切手代		652	56，130
3．20	切手のカンパ62×20＝1，240円分			
〃	切手のカンパ62×10＝620円分			

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

少し紙面が残ったので、ヤマギシズム特別講習研さん会に参加したひとの感想文を紹介したいと思います。

腹が立たなくなるのを実感・・・（主婦31才）

今までにこんなに深く自分自信の内面について考えたことはなかった。腹が立ったときの自分の姿をいやだなあとは思っていたが、これは自然の姿なのだから仕方のないことだと決めつけていた。その考えが間違っていたことを知り、本当に腹の立たない人になることは可能なのだと実感した。こんなにも自分が楽になったなんて信じられないような事実である。

今まで、人生でいろんな難問にぶつかってきたが、自分ではもう解決していたと思っていたことも、実のところはそれを引きずって生きていたことを思い知らされた。

他人に同情されたくない気持から自分のことを語ることができなかったのに、ここで私を優しく迎えてくれた人々には話をすることができた。みんなの暖かさが本当に心地よかった。私は小学生のころからずっと、死ぬことが怖かった。宗教でも何でも心の拠所にできたら楽になるだろうと思っていた。ところが今は死を容認できる自分がいる。死ぬときに笑っていられる自分になりたいと強く思える。それがとても嬉しい。

今なら何でも放せそうな気がする。今まで本当にたくさんのものに執着してきた自分を思うと涙がでて来る。どんどん放して行きたい。放す喜びを味わいたい。

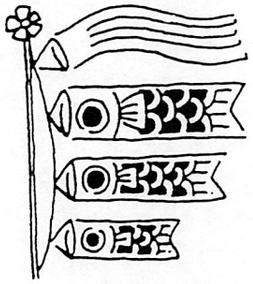
対立や怒りや悲しみのない真に自由な生き方は、本当の自分、新しい自分との出会いから始まります。特別講習研さん会はその唯一の機会です。

あなたも受けてみませんか？

では、次号をお楽しみに！

アストロラマ　Ｎｏ．７０

発行者　桑原由紀子　生駒市上町９－１２　☎０７４３７－８－１９６９
１９９１．５．１５



連休も終わり、五月病とやらがあらわれる今日この頃です。
皆様にはどんな連休だったでしょうか？我が家では見事な一家離散のゴールデンウィークとなってしまいました。夫はモスクワ、カザフ共和国へ１０日間の演奏旅行、義母もついでに千葉の義姉宅へ１５日間、沙代子は楽園村へ一週間、私は独身に戻ったみたいにのんびりと、２４時間思いのままに使って一人暮らしを満喫・・・・。
こんな私と違って休む間もなく忙しい日々、夢いっぱいの日々を送っていらっしゃる秋山智弘さんから楽しい原稿が届きました。

笑われそうな前書き

秋山智弘

サイドストーリーが書けなくなって気になっていました。花博が終わった翌日の１０月１日から、また博覧会を始めてしまったのです。今度は１９９３年に長野県松本で開催する「信州博」です。
「また？」とか「まだ？」とか、あきれ顔で質問されますから、「それでも博覧会ですよ」と答えています。
信州の博覧会ですから、自然をとりこんだ新しい文化創造がテーマです。
全体のプロデューサーで、会場づくりから運営まで計画が広がっていますが、長年やってみたいと思っていた「温泉パビリオン」が実現しそうで、他のことはとにかくとして、ニコニコしているのです。
皆さん、ぜひ「博覧会温泉」におでかけください。（２年後ですが）
このごろ地元のラジオ局につかまり、毎週金曜日に「ラジオエッセイ」というレギュラー番組を持っています。アストロラマの話も、次々としてゆくつもりですが、これまで放送した中で、聴取者の反応のあった話を「番外編」にしてみました。お楽しみいただけたら幸いです。

アストロラマサイドストーリー　番外編

秋山智弘

「南の海とおばあさん」

沖縄の本土復帰が決まり、戦争で大きな痛手を受けた沖縄で、発展のきっかけになる博覧会が開かれることになりました。
大阪万博の制作に参加した仲間のうち、何人かが、頼まれて、海の博覧会を開くのにふさわしい場所を探すことになりました。
沖縄の皆さんのお役に立つならば、というわけで私も出かけてゆきました。
私の受け持ち調査地域は、石垣島を中心とする八重山諸島の島々でした。むろん、私にとって初めてのところです。
まずびっくりしたのは、海の美しさ、そして島の人々のやさしさでした。
心が満ちているというのか、会う人ごとに深い人間性を感じました。
今、話題の石垣島を案内してもらい、さらに先の竹富島へ渡ることになりました。
石垣島の港で船を待っていました。港は、澄んだエメラルドの水をたたえ、青い小魚の群れが底に影を落としてすぎてゆくほかは、眠ったように静かでした。
日なたは猛烈に暑いので、船を待つ人々は、港を囲む家の軒下や木陰に、ひっそりと座りこんでいました。
やがて、島へ通う連絡船が入ってきました。連絡船といっても、ちょっとした漁船くらいの大きさで、ビロウ樹の葉っぱを編んだ日おおいがついている、南国らしい船なんです。
船が、岸壁に近づくと、島からやってきた乗客の若者が、真先に岸に飛び移ろうとしました。
ところが、ちょうど船がゆれて、タイミング悪く、若者はドボンと海へ落ちてしまいました。
暖かい海です。危険はありません。

そのとき、日ざしをさけて、大きなガジュマルの樹の根元に座っていたおばあさんが二人飛び出してきました。

沖縄独特の素朴な着物をきた、小柄なおばあさんたちです。

若者が落ちたところへ駆けつけると、お日様を仰いで大笑いしました。

それから、突然、二人は踊りだしたのです。頭の上に両手をかざし、軽やかに足を踏み、身振りもおかしく踊るのです。

こんな面白いことはない。気の毒だけれどおかしくてしょうがない。

おばあさんたちは、その気持を即座に、でたらめな踊りにしてしまったのです。

それまで日陰で動かなかった人たちが、次々と飛び出して、二人の踊りに加わりました。たちまち踊りの輪ができます。やっと岸に這い上がったずぶぬれの若者を囲んで、大騒ぎの踊りが続きます。

強い日ざしの中で、私は、真昼の夢を見ている思いでした。

沖縄の人々は、長い間、つらい歴史を生きてきました。しかし、悲しいこと、おかしいことを体全体で表現してしまう、南の島のおおらかさを、決して失いはしなかったのです。　私はそうした沖縄の心を、のぞかせてもらったような気がしました。

それから４年後、沖縄海洋博が開かれました。私は博覧会を作りながら、あのおばあさんたちが、心から踊りだしてくれるような出しものにしたいなぁと、思いつづけました。

博覧会のたびごとに、その思いは続いています。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

秋山さん、お忙しい合間に、たくさん書いて下さって有り難うございます。

信州博の総合プロデューサー・・・いよいよ夢の実現ですね。私までワクワクしてきます。開幕の折りには是非行ってみたいものです。

アストロラマ読者のために、信州博のこと、いろいろ教えて下さいね。

’９３信州博覧会

開催期間：平成５年７月１７日〜９月２６日（７２日間）

開催場所：長野県松本平広域公園内　松本空港東側

テーマ：「豊かな心の交遊と創造」　サブテーマ：「ゆとりとふれあい」
「人間と地球」

新人紹介

アストロラマの読者が増えました。

東京の宮木宏之さん、西宮市の中島悠紀さん、石橋洋子さん・・・美保さんの紹介でアストロラマを送らせていただくことになりました。

さて、２１年前、大阪で開かれた日本万博の中の、一パビリオン：みどり館のコンパニオン仲間で始まったこのアストロラマ、だんだん読者が広まって、今ではみどり館の枠も、万博の枠もはずれて、書きたい人が書いて、読みたい人が読む。そんなアストロラマになってきました。

「アストロラマって何？」ってよく聞かれるのですが、これは、みどり館が出展した、全天全周映画のことで、この度、信州博の総合プロデューサーになられた、秋山智弘氏がこの世界初の全天全周映画を「アストロラマ」と名付けられたわけです。

その記念すべき名前を紙名に使わせていただいてる・・というわけです。

今後とも大いに書いて読んで楽しもう！

では、上記の宮木さんからいただいた自己紹介です。

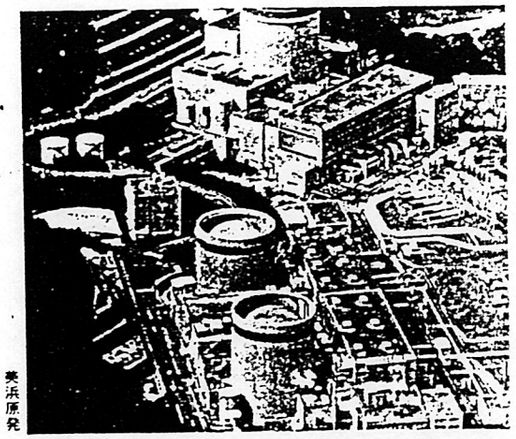
はじめまして、宮木宏之です。東京都の下町の代表と言うべき、墨田区の八広という所で生まれ育って今年で丁度４０年。仕事は墨田区立二葉小学校で用務員をしています。学校勤務なので夏休み、冬休み、春休みと休みが多く、その都度国内・外の旅をするのが趣味というか、今はそのために一生懸命に毎日働いていると言った方がいいかもしれません。

スポーツが好きで、水泳以外のものなら一応はこなします。

杉原さんから以前戴いて、とても興味深く「アストロラマ」を読ませて戴きました。

書くことが好きです。

宮木さん、早速にお便り有り難うございました。旅行が趣味だそうで・・・すてきな出あいとか、楽しい失敗談とか、旅のエピソード聞かせて下さいね。



美浜原発

環境シリーズ

美保子の❸

地球にやさしく

杉原美保子

原発を増やさないために

美浜原発で、原因不明（二月中旬現在）の事故が起きました。関係者は、起きるはずのない事だといって不思議がっているのだそうですが、その対応にますます怖さを感じてしまいます。

チェルノブイリで原発事故があったのは、私がボストンに住んでいる時でした。この時、西ドイツからMIT（マサチューセッツ工科大学）に研究に来ていたゲルハルトが、「いま考えなければ人類は破滅する。どの国の政府も原発を推進するだろうから、私達市民がよほどしっかりしなければ大変なことになる」と、顔を引きつらせて熱弁をふるっていたことが忘れられません。

ゲルハルト夫妻は、間もなく帰国しましたが、子供を少しでもチェルノブイリの汚染から守るためだと言って、夏の休暇はいつもボストンで過ごしていました。

ボストンの北、ニューハンプシャーにできた原発の使用を、住民たちで止めたのもその頃です。しかしアメリカ市民は、原発に対して最初から高い関心があったわけではないのです。私達が一九八四年三月二十八日に、スリーマイル・アイランドを訪ねると、偶然にも原発事故の五周年に当たる日でした。事故現場は、町から三マイル（約四・八キロメートル）しか離れていないことに先ず驚いたものです。

チェルノブイリの原発事故当時、日本には三十三基の原発がありましたが、その二年後に私達が帰国すると、なんと三十八基（商業用三十六基）に増えているではありませんか。昨年末、山東昭子議員が科学技術庁長官に就任した時、世界の動きに逆行する原発奨励の挨拶をシャアシャアとしたのは全く失望です。

一昨年の夏、私はシュツットガルトの『老人の家』に住む友人のライマン夫人(83)を十一年ぶりに訪ねました。私は彼女と一緒に大学の講義に出かけたり、手作りの夕食をご馳走になると、午後八時ころには別棟にある来客用の自分の部屋に引き上げました。

その時刻になると、どの家のドアも閉まり、静まりかえった廊下は真っ暗。でも、ところどころにあるスイッチを押すと、三分間だけ明かりがついて、通り過ぎたあとはまた暗くなります。

昨年の夏に行ったポーランドのワルシャワでも、アパートの入り口の名札や郵便受けのある場所も、階段も暗くなっていて、スイッチを入れて明かりをつけましたが、やはり三分で電気が消えました。ドイツやフランスでも、訪れた大学や研究所はこうして節電していました。

日本では宿屋に泊まると、廊下もそうですが、お風呂場が一晩中あかあかと電気がついたままなので驚いてしまいます。私は日頃、気づいたときには少しの明かりを残し、他は全部消すことにしていますが、このような豊かな電気は、危険な原発に約二六パーセント（一九八九年）も頼っていることや、これからまだ十三基の原発を作ろうと建設が進行中であることを、あなたは知っていますか。

（フリーランス・ライター）

会計報告

	摘要	収入	支出	残高
91．4．5	繰り越し			56，130
〃	コピー代（69号）		3，000	53，130
〃	切手代		6，572	46，558

「美保さんと歩こう会」の報告

5月12日、予定していた歩こう会は、雨のため中止、とはいってもせっかくあけておいた一日、ムダにするテはないと、急拠桑原宅で「話そう会」に変更。

美保さんを囲んで集まったのは、池田市から西宮重和さん、おなじみの青木千里さん、友達の長井あつ子さん、ヤマギシ仲間の大窪さん（彼は三重県から参加）、平真知子さん、広場の会の友達の斎藤さん、奈蔵さん、ともこちゃん（小4）、アストロラマ仲間の奥田芙三恵さん、お琴仲間の小山利恵子さん、ソ連から帰ったばかりの夫も参加して総勢14人。

美保さんや西宮さんみたいなステキな方を、私ひとりで囲っていてはもったいない。もっともっとみんなに紹介したい、そんな思いで声をかけて集まって下さった今日の仲間も、それぞれにピチピチ生きている方ばかり。　「美保さんってどんな人でしょう？楽しい一日保証します」のうたい文句に乗せられてやってきた初めてのお友達も、たちまち美保さん、西宮さん大好きになってしまいました。

お琴の伴奏で歌ったり、平真知子さんの、パネルシアターに感心したり・・・これはフェルトを貼ったパネルに絵本の絵の部分を貼りつけながら、お話しをするというもの。

その内、「美保子の地球にやさしく」をパネルシアターで創作しょうなんて話も飛びだして、大いに盛り上がりました。思ったことはやってみたい私達。きっと近い内に実現するでしょう。　又、皆んな驚いたのが、我が家の玄関のタペストリー・・・といえば、聞こえがいいけど、沙代子の小さくなった衣類がぶらさがっているんです。「必要な方、自由に持って行って下さい」って書いて。不用になった子供服が捨てられなくて、ふと思いついた処分方法なのですが、物を活かして使う美保さんにも褒められ、我ながらなかなかいいアイデアだな・・なんて思っているところです。

持ち寄りのごちそうをいただきながら、夕方5時過ぎまで、雨もまた楽しいって思えた一日でした。

おわり